

梅丘図書館改築基本構想 報告書

平成 28 年 5 月

梅丘図書館改築基本構想策定委員会

目次

1. 梅丘図書館改築の背景

- 1-1 第2次世田谷区立図書館ビジョン及び第1期行動計画 1
- 1-2 図書館を取り巻く動向について 2
- 1-3 図書館運営の動向について 3

2. 梅丘図書館の現況

- 2-1 施設の現況 5
- 2-2 現況のまとめ 14

3. ワークショップやアンケートによる区民からの意見

- 3-1 梅丘図書館機能検討ワークショップについて 18
- 3-2 新しい梅丘図書館に関するアンケートの結果 21

4. 梅丘図書館改築の基本方針

- 4-1 基本方針の視点 24
- 4-2 基本方針 25

5. 梅丘図書館の施設整備に関する考え方

- 5-1 施設整備に関する条件 31
- 5-2 施設整備に関する考え方 32
- 5-3 施設整備内容のイメージ 33
- 5-4 全体構成の方針 38
- 5-5 ゾーニング案 40

6. 梅丘図書館改築にあたっての今後の留意事項 42

資料編

- 1 梅丘図書館改築基本構想策定委員会設置要綱 45
- 2 梅丘図書館改築基本構想策定委員会名簿 47
- 3 梅丘図書館改築基本構想策定委員会概要 48
- 4 梅丘図書館機能検討ワークショップ 報告書 49

1. 梅丘図書館改築の背景

世田谷区では、平成27年に第2次世田谷区立図書館ビジョン（以下「図書館ビジョン」）を策定し、これに取り組むにあたり、達成目標として、第1期行動計画（平成27年度～平成29年度）を策定しました。

第1期行動計画の中では、梅丘図書館の改築が「図書館ネットワークの構築」として掲げられており、本基本構想の策定はその第一段階にあたるものです。

1-1 第2次世田谷区立図書館ビジョン及び第1期行動計画

（1）第2次世田谷区立図書館ビジョンの基本理念

図書館ビジョンでは、世田谷区立図書館の基本理念を「知と学びと文化の情報拠点」と定めています。

知と学びと文化の情報拠点

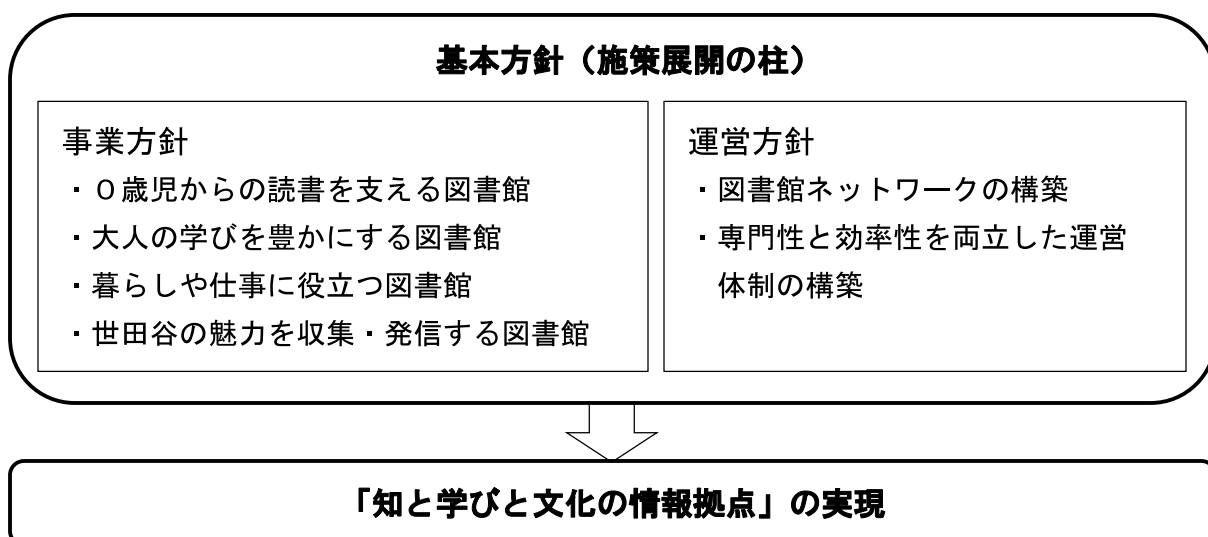
図書館の公共性の観点に立ち、子どもが本に親しみ、豊かな精神的成長を助けるとともに、大人の知的欲求と学習意欲に応えます。さらに、読書や地域文化の情報収集と発信を通じて世田谷の魅力を見出し、それらの活動や文化の担い手となるコミュニティの醸成につながる交流の場所、地域に開かれた知的な居場所をめざします。

世田谷区立図書館では「知と学びと文化の情報拠点」という基本理念のもと、世田谷区基本計画及び第2次世田谷区立図書館ビジョンで示されている子育て応援都市を目指した「子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進」や、世田谷区子ども読書活動推進計画を踏まえ、子どもが本を手に取り、夢を描くための手助けとなる施策を展開しています。

（2）第1期行動計画の概要

「知と学びと文化の情報拠点」の実現に向け、事業方針と運営方針からなる基本方針（施策展開の柱）を次のように定めます。

事業方針は、図書館サービスの方向性を示し、運営方針は、そのサービスを実施するための体制や運営・管理のあり方を示すものです。事業方針と運営方針が相互に補完しあうことで、効果的に施策を進め、基本理念を実現します。



また、図書館ビジョンは平成27年度からの概ね10年間を計画期間としています。さらに施策を取組むにあたり、2～4年程度の期間における具体的な事業項目と年次別計画を定め、達成目標を示す行動計画を並行して策定しています。第1期行動計画では、平成27年度から平成29年度までの3か年を計画期間として定めています。

1-2 図書館を取り巻く動向について

情報通信技術（ICT）の進歩と通信基盤の整備等に伴い、図書館資料のデジタル化、データベース化等 ICT の活用による図書館サービスの拡大、高度化が期待されています。こうした流れを受け、近年ではインターネットを活用した電子図書館や地域文化・産業の特色を活かした図書館、ビジネス支援に積極的に取り組む図書館等、機能の拡張や充実を図る公共図書館も増えつつあります。

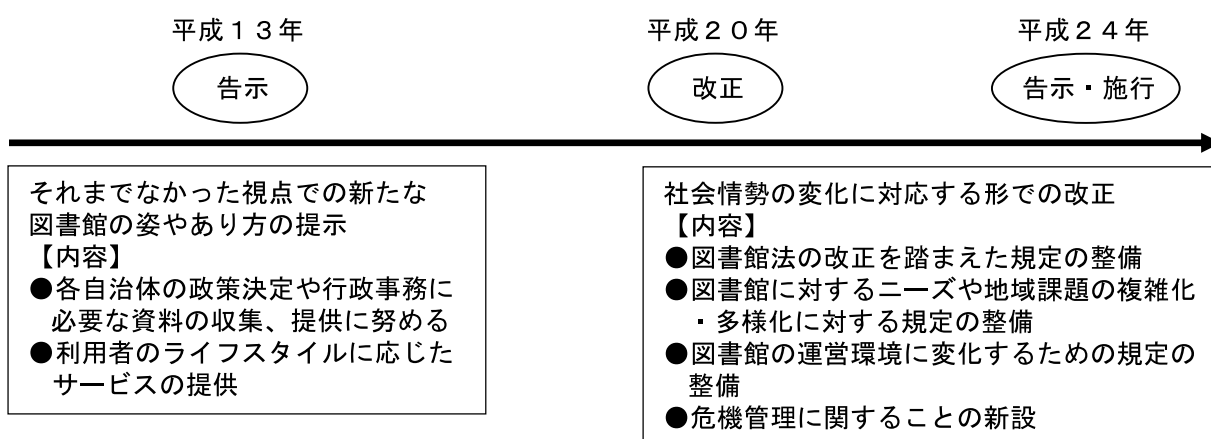
世田谷区立図書館でも、地域における「知と学びと文化の情報拠点」としての役割はもちろんのこと、子どもの読書活動への支援、サービスの向上による利用の促進、高齢化・国際化による多様な利用者へのサービスの推進等、社会情勢の変化に対応できる地域コミュニティの拠点としての役割が求められるようになっていきます。

1-3 図書館運営の動向について

(1) 公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準の告示

公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準は平成13年に文部科学省から告示されました。その後、時代の変化に対応する形で改正され、現在の基準は平成24年に、平成24年12月19日文部科学省告示第172号として告示されたものです。改正ごとに、その時代に即した図書館に関する運営上の対応が示されています。

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の沿革

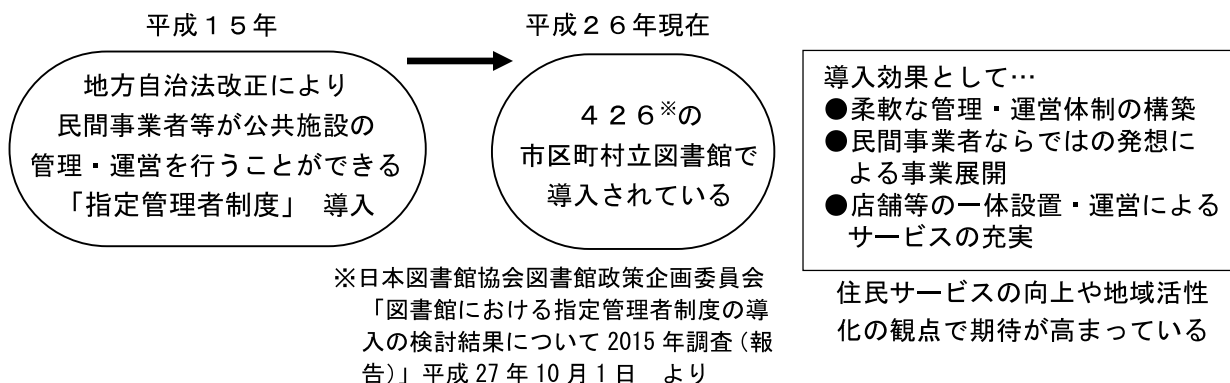


この基準の目的は図書館の健全な発展に資することとされており、公立図書館については、①基本的運営方針及び事業計画の策定、公表、②運営状況の点検、公表、③広報活動及び情報公開の積極的な取組み、④利用促進のための開館日及び時間の配慮、⑤特に配慮を要する者のための施設・設備の確保などが示されていますが、いずれも具体的な目標数値は掲げられておらず、努力規定となっています。

（２）指定管理者による運営

指定管理者制度は平成１５年の地方自治法改正により、民間事業者等が公共施設の管理・運営を代行し、地方自治体の財政負担の軽減、多様な利用者サービスへの対応や各施設の目的に沿った運営手法を図ることを目的に導入された制度です。

「指定管理者制度」について



（３）新たな形態による図書館の展開

全国の公共図書館において、要望の多い蔵書を中心に絞り込んだ小規模な図書館や、通勤通学時にも気軽に利用できる駅直結型の図書館等、利用者のニーズや社会状況の変化に合わせた新たな形態の図書館が広がりを見せています。

世田谷区立図書館においては、平成２８年度から地域図書室全室に図書館情報ネットワークを導入し、利便性の向上を図りました。

また、平成２７年度には二子玉川と三軒茶屋に図書館カウンターを開設しました。サービス内容を図書館資料等の予約や予約資料の貸出と返却等に特化することで、主要駅近くの交通至便な場所において図書館サービスを実現したものです。午前９時から午後９時までの開館時間に加え、区内の障害者福祉施設の作成物を販売するコーナーを併設する等、特徴的な運用形態となっています。

本基本構想では、図書館ビジョンで掲げられた基本理念の具現化を図るとともに、昨今の図書館を取り巻く状況やこれからの動向を踏まえ、基本設計に向けて基本方針や施設計画に関する考え方を取りまとめます。

2. 梅丘図書館の現況

2-1 施設の現況

(1) 施設概要

- ①所在地 世田谷区代田四丁目38番10号
- ②敷地面積 約2,615 m² (羽根木公園全体 79,650.71 m²)
- ③既存施設延床面積 1,546 m² (設備等の関係諸室面積を除く)
- ④構造規模 鉄筋コンクリート造 地上2階地下1階
- ⑤開設年 昭和43年
- ⑥図書館の管理運営の状況

開館時間については、火曜日から日曜日は午前9時から午後7時まで、祝・休日、12月28日及び1月4日は午前9時から午後5時までです。休館日は毎週月曜日、年末年始、館内整理日、特別整理期間であり、平成26年度の開館日実績は300日です。

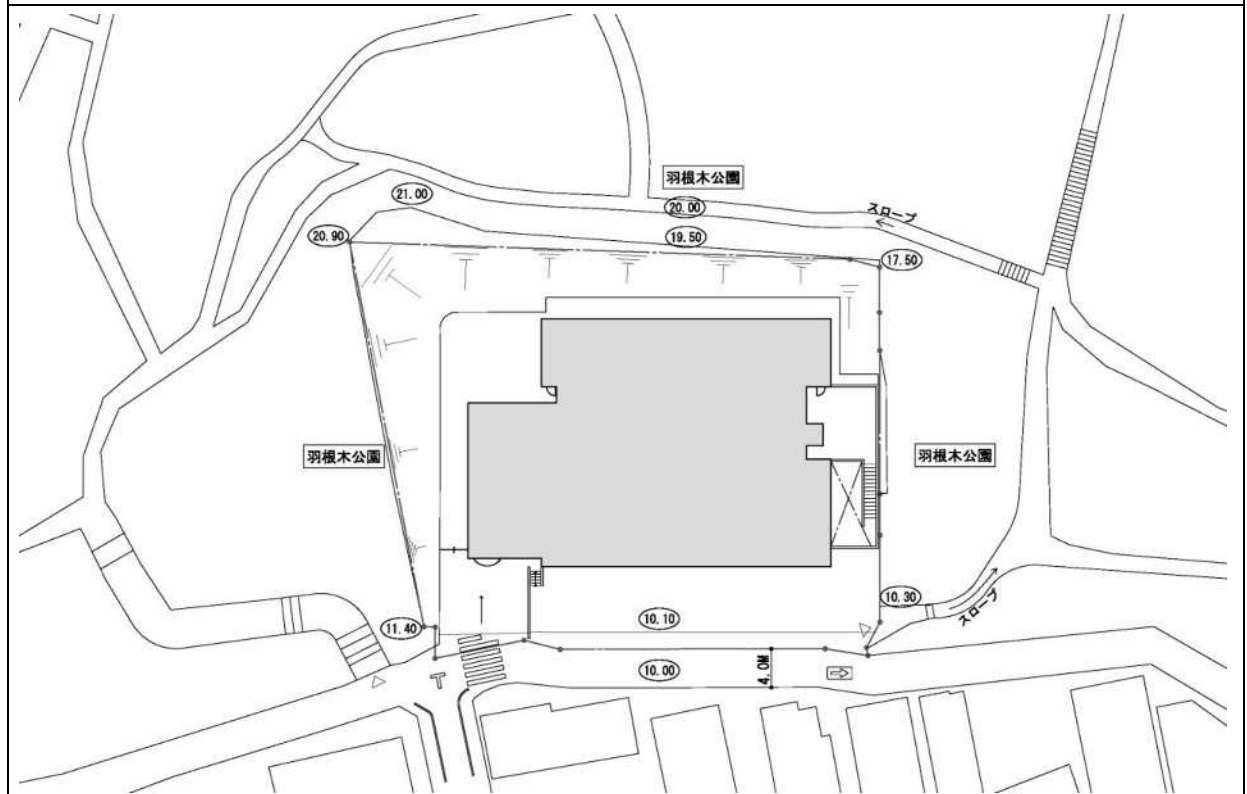


梅丘図書館外観写真

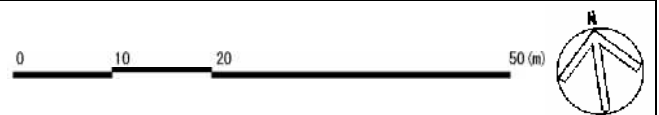
⑦現況図



位置図



配置図

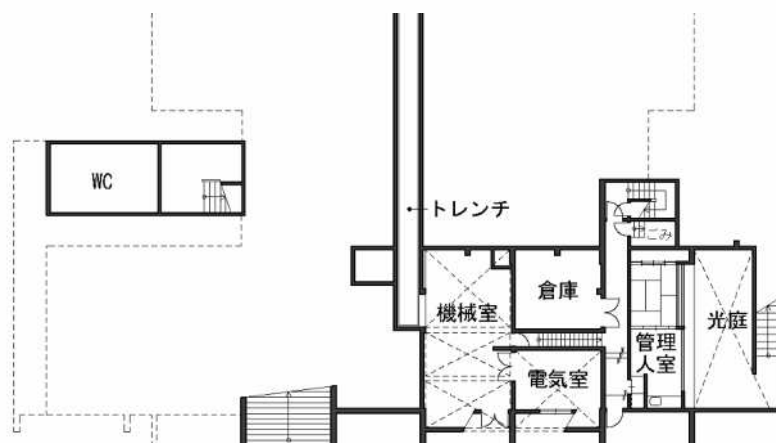




2 階



1 階

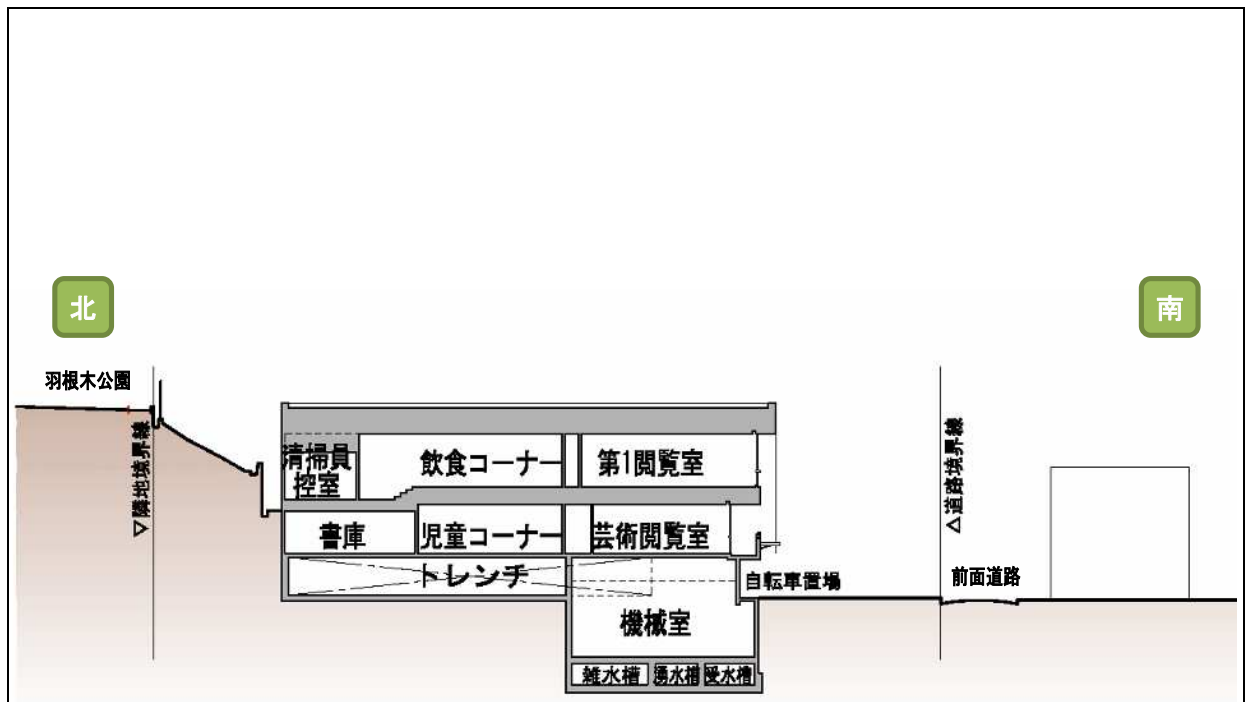


地下 1 階

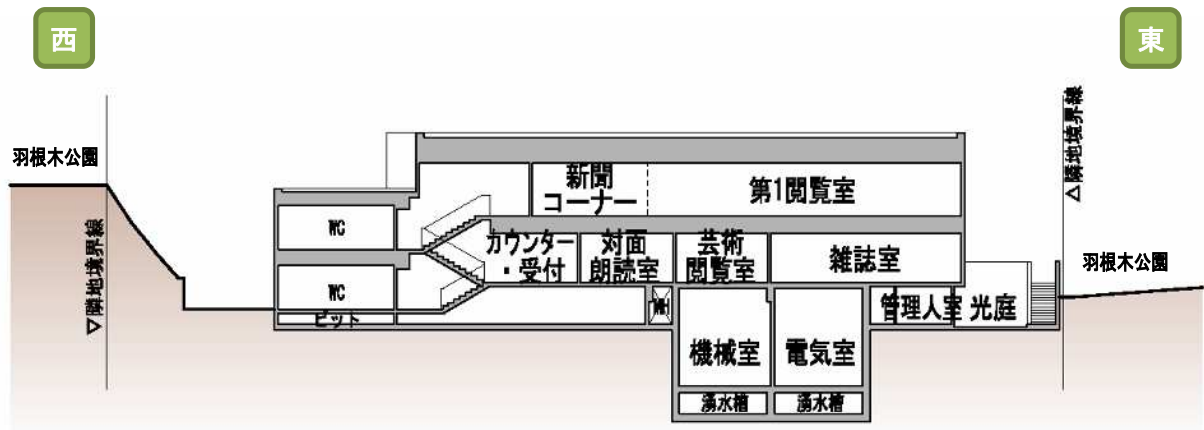
平面図（地下 1 階～2 階）

0 1 2 5 10 (m)





縦断面図



横断面図

断面図

0 1 2 5 10 (m)

⑧部門構成

現状の部門構成ならびに各室の面積は表１の通りです。閲覧席は１０８席で、そのうち１２席はパソコン利用可能席となっています。

表１ 梅丘図書館の面積

部門	階	室名	面積（㎡）	部門計（㎡）
閲覧貸出	2	第１閲覧室	163	715
	2	第２閲覧室	76	
	2	新聞コーナー	61	
	2	飲食コーナー	117	
	1	雑誌室	88	
	1	芸術閲覧室	36	
	1	児童コーナー	91	
	1	カウンター	83	
書庫	2	書庫	104	312
	1.5	（書庫）	104	
	1	書庫	104	
集会等	2	会議室	69	92
	1	対面朗読室	23	
事務室	1	事務室	104	123
	2	清掃員控室	19	
共用部	2	トイレ	25	304
	1	トイレ	25	
	1	多機能トイレ	7	
	2	階段・廊下	26	
	1	階段・廊下	73	
	B1	階段・廊下	48	
	2	倉庫	66	
	1	倉庫	34	
計			1,546	1,546
設備等	1	電算室	46	196
	B1	機械室	52	
	B1	電気室	23	
	2	設備シャフト	4	
	1	設備シャフト	17	
	B1	管理人室	27	
	B1	倉庫・ごみ置場	27	
計			196	196
合計			1,742	1,742

（２）平成２６年度事業実績（喜多見まちかど図書室を含む区内 17 図書館中）

①図書資料	95,789 点	（6 位）
②雑誌・タイトル資料	145 点	（7 位）
③音響資料	2,668 点	（13 位）
④個人登録者数	21,955 人	（6 位）
⑤個人貸出数	321,407 点	（8 位）
⑥予約受付数	108,640 点	（8 位）

区の図書館の中では、いずれの項目についても平均的な実績となっています。

（３）主な活動

①子ども向け行事等 126 回開催 2,672 人参加（平成 26 年度事業実績）

②おはなし会

- ・毎週金曜日に図書館職員とボランティア団体「絵本とわらべうたの会」が毎週交代で開催
- ・月 1 回土曜日にボランティア団体「ほほの会」が開催

③幼児向けおはなし会

毎週水曜日に図書館職員とボランティア団体「グレーテルの会」が毎週交代で開催

④おとなを対象としたおはなし会

月 1 回土曜日にボランティア団体「ほほの会」が「おとなの朗読会」を開催

⑤布絵本の貸出

梅丘図書館の特徴として布絵本の貸出があり、区内で唯一の活動です。

貸出用の布絵本は、図書館と連携したボランティア団体「そよ風」が作成しており、布絵本はミシン等を用いて、図書館内で作成しています。「そよ風」は主に第 1・3 土曜日、第 2・4 木曜に活動しています。（写真 1）

写真 1 布絵本例



（４）地域特性

①図書館周辺

梅丘図書館は、小田急線梅ヶ丘駅から北東方向約 200m に位置し、北側には羽根木公園が広がっています。図書館周辺は閑静な住宅地となっており、前面道路は幅が狭く一方通行になっています。また、羽根木公園と接する敷地は、北・東・西側は傾斜地（法面）になっているため、図書館の改築にあたっては、法面に対する安全対策も求められます。

②羽根木公園のイベントや活動

羽根木公園は、テニスコートや野球場が併設されている他、早朝のラジオ体操やランニングコース・ウォーキングコース等にも活用され、スポーツ活動の場として多くの区民に利用されています。

また、「雑居まつり」、「せたがや梅まつり」等のイベント開催や、子どもたちが思い思いに遊べる活動の場「羽根木プレーパーク」（NPO 法人プレーパークせたがやによる運営）等、多目的な活動の場としても、多世代に渡り多くの区民に親しまれています。

表 2

雑居まつり	毎年 10 月の第 2 日曜日に羽根木公園で開催される 40 年続く地域主体のイベント。世田谷のボランティアと福祉団体が中心となり、実行委員会形式で運営され、「地域の問題は地域住民の手で」というスローガンを掲げている。
せたがや梅まつり	羽根木公園の約 650 本の梅の開花にあわせ、毎年 2 月中旬～3 月初旬まで開催され、平成 28 年で第 39 回となる。期間中の土・日・祝日には、模擬店の出店や舞台催し物等のイベントが行われる。
羽根木プレーパーク	1979 年に開設されたプレーパークは、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした遊び場で、世田谷区から委託を受けた NPO 法人プレーパーク世田谷が運営する。

③図書館周辺にまつわる計画や方針

○世田谷区都市整備方針 第二部「地域整備方針」（平成 27 年 4 月）

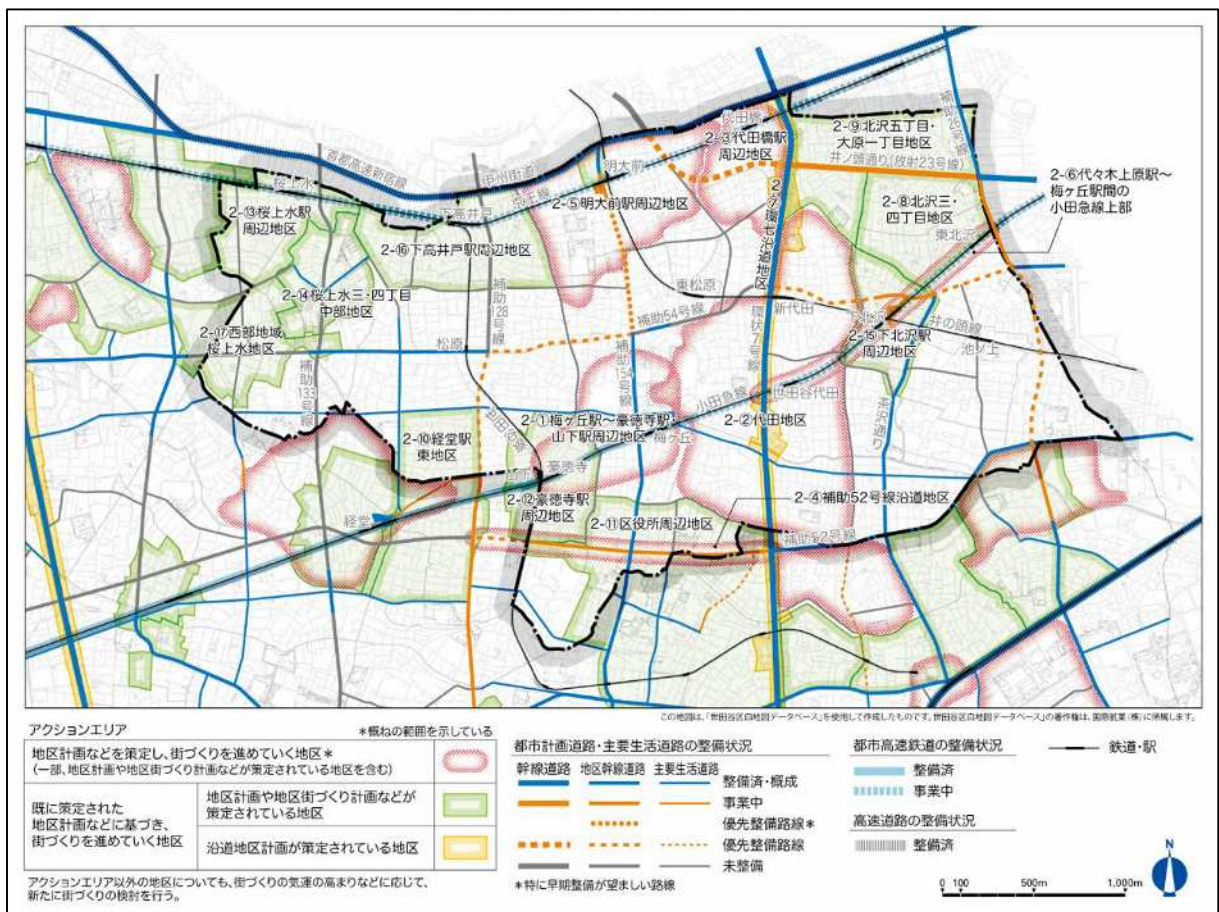
「世田谷区都市整備方針」第二部「地域整備方針」の中で、地域生活拠点である梅ヶ丘駅周辺地区を、全区的な保健医療福祉の拠点となる梅ヶ丘病院跡地整備にあわせ、ユニバーサルデザインを重点的に進める「保健福祉の街づくり重点ゾーン」と位置づけています。

羽根木公園は「みどりの拠点」として、誰もが快適に利用できるようにオープンスペースやみどり、各種施設をバランス良く配置するとともに、アクセス環境の充実が目指されています。

また、北沢地域のアクションエリアの方針では、梅ヶ丘駅～豪徳寺駅・山下駅周辺地区について、以下のことが示されています。

- ・保健福祉の街づくり重点ゾーンとして、梅ヶ丘病院跡地の拠点整備にあわせ、ユニバーサルデザインによる街づくりを進めます。
- ・公共施設や大規模な建築物の建設および道路等の改修の際には、意匠やユニバーサルデザイン等について、これまでの「やさしいまちづくり」を継承し、一体感を持つ街づくりを進めます。

図 1 「地域整備方針」北沢地域のアクションエリア



○梅ヶ丘駅～豪徳寺駅・山下駅界わい街づくりデザイン指針(平成 27 年 4 月)

図書館周辺は、「梅ヶ丘駅～豪徳寺駅・山下駅界わい街づくりデザイン指針」の対象エリアであり、ユニバーサルデザインによる街づくりを重点的に進めている地区です。これまでの「やさしいまちづくり」を継承し、一体感を持つ街づくりを進めていく際のガイドラインとして指針が定められており、公共施設ではより積極的な取り組みが求められます。

図2 「梅ヶ丘駅～豪徳寺駅・山下駅界わい街づくりデザイン指針」対象エリア



2-2 現況のまとめ

梅丘図書館は、かつては中央図書館としての機能を担っていた時期もありましたが、昭和43年の開設から48年が経過しており、図書館サービスやバリアフリー等への対応において公共図書館として十分なサービス水準を保てていたとは言えなくなってきました。

時間の経過に伴い、時代ごとに図書館に求められる機能の水準が高まり続けるなか、施設更新や改修等を行ってきましたが、建設時には想定していなかった、環境負荷低減、省エネ、ユニバーサルデザインや情報通信技術（ICT）の進展等、新しい機能への対応は、既存施設の制約もあり困難であるのが現状です。

また、館内の東側や西側の一部の開口部から羽根木公園の木々や草花を眺めることができますが、公園の面に対して大半が外壁で閉じています。今回の改築にあたっては、緑豊かな公園内に位置する立地特性のポテンシャルを最大限活かすことが望まれます。

現況の施設調査・周辺環境の調査や現在の梅丘図書館職員へのヒアリング結果等を踏まえ、以下、改築にあたっての調査内容を整理しました。

（1）ユニバーサルデザインの充実

世田谷区ユニバーサルデザイン推進条例の中で、ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用しやすいように生活環境を構築する考え方とあります。建設当時の梅丘図書館は、この考え方が社会的に発展途上でもあり、法整備等もされていませんでしたが、近年ユニバーサルデザインやバリアフリーの考え方が普及していく中で、梅丘図書館でも既存施設の制約条件の下、多目的トイレや手すりの設置等の改修工事や運用で対応をしてきました。しかし、現況の施設調査では、既存施設の制約により十分な対応が難しい点も見られます。

バリアフリー動線に関しては、既存の1階の床レベルが前面道路よりも約2m程度高く、アクセスしづらいため、子どもや高齢者、障害者にもアクセスしやすい床レベルへの配慮が必要です。

階段の踊り場にある1～2階共通のトイレは、階段を上り下りしないと利用できない配置となっているため、改築にあたっては各階の子どもや高齢者、障害者が利用しやすい位置にトイレを整備することが必要になります。

子育て世代が利用しやすい施設としても、トイレには子どもの背丈にも対応した器具やベビーチェアの設置、おむつ替え等への配慮、流し台やベビーベッドを

併設した専用の授乳室の設置、ベビーカー置場のスペース確保といった配慮が望まれます。

通路等においては車いす使用者やベビーカーでの来館者に対応した幅を確保し、特に書架と書架の間の通路幅は、将来の蔵書数の増加や耐震性等の安全性に考慮した十分なスペースの確保が望まれます。

一般図書コーナーでは、図書館利用が困難な人に対応するため、対面朗読室や拡大読書器等を充実することが重要です。また、初めての利用者にとっても分かりやすいゾーニング、空間構成、書架レイアウト、サインデザインが必要となります。閲覧席のあり方としては、書架の間にも閲覧席をバランス良く設け、図書資料等を気軽に閲覧できるスペースを随所に設ける配慮が望まれます。

（２）羽根木公園との関係

梅丘図書館は、南面を除く３面が羽根木公園に面しており、公園の豊かな緑や草花等自然に囲まれた立地にあります。館内からは、２層吹抜けの１階児童コーナーに面した東側の窓から、公園の緑を見ることができます。２階の会議室では、西側の窓から自然光が入り、公園の眺望を確保しています。その他の室は公園に対して大半が閉じており、改築にあたっては、公園に対して開口部を設け、緑や自然を取り込むことが望まれます。ただし、図書館と公園との間のレベル差や、斜面を支えるコンクリートの擁壁の見え方に配慮し、ゾーニング、諸室の配置、開口部の取り方には十分な検証が必要となります。

一方で、羽根木公園から図書館側を望むと、公園と図書館との間は、高木やフェンスで囲われており、屋上と設備機器類しか見えず、図書館であることがわからない状況です。これらを踏まえ、公園との景観に配慮しながら、公園利用者が気軽に図書館に立ち寄れるような一体的な整備を行うことが望まれます。



羽根木公園から梅丘図書館を見た現状



図書館と北側斜面との接続部の現状

（３）図書館機能の充実

近年の図書館は、様々な利用者へのサービスの充実から、課題解決の支援、まちづくりへの取り組み、地域の学校や団体との連携、電子図書館等、従来の図書館機能だけに留まらず、機能は高度化、多様化しています。

こうした中で、梅丘図書館では利用者サービスの対応として、限られたスペースを有効に活用するため、会議室を子ども用のおはなし室と兼用し、対面朗読室を授乳室と兼用する等の対応をしてきましたが、改築にあたっては、それぞれ専用の室を確保する等、利用者への更なるサービスの充実が望まれます。

また、情報通信技術（ICT）が広く普及する中、インターネット等を利用した情報提供サービスの充実を図るため、インターネット席や無線 LAN の導入、IC タグを活用した自動貸出機、予約本棚、電子書籍による貸出等、更なる利用者の利便性向上につながる運用を検討する必要があります。

閲覧席については、梅丘図書館は地域の情報収集や学びの拠点として、これまで地域の学生が自学自習で利用できる閲覧席の機能を有してきましたが、本を読むための利用者へ向けた閲覧席のあり方についても今後検討する必要があります。



1 階対面朗読室
（おはなし室・授乳室と兼用）



2 階会議室
（おはなし室と兼用）

（４）地域コミュニティ機能の充実

梅丘図書館の特徴として、ボランティア団体が作った布絵本がありますが、ボランティア専用の部屋がなく、対面朗読室を利用しているのが現状です。改築にあたっては、地域の団体がいつでも利用できるような区民活動室やボランティア活動室といった機能の導入が望まれます。また、そうした機能の導入によって、羽根木公園のイベントや活動、子どもの拠点である羽根木プレーパークとの連携を深めることも期待できます。

（５）安全な施設づくり

図書館は、区民が自由に利用できる施設であり、区民の財産である図書資料等を保管する施設です。

大地震時等の災害時に対しては、人命を守ることを最優先にした構造計画、防災計画に取り組むとともに、建物だけでなく、書架の転倒防止や図書資料等の落下防止、設備機器の転倒・落下防止等の配慮も必要となります。また、羽根木公園と接する擁壁については、法面を含めた地盤の安全性を十分に検討・確認する必要があります。

また、近年の図書館では、不審者や盗難等に対して見通しに配慮した計画や、IC タグを利用したセキュリティシステム等による防犯対策が重要となっています。改築にあたっては、各階にカウンターを設けることを検討し、見通しが利くよう書架の高さを低く抑え、死角を作らない書架レイアウトとする等、運用だけに頼らない工夫が望まれます。

3. ワークショップやアンケートによる区民からの意見

3-1 梅丘図書館機能検討ワークショップについて

世田谷区では、本基本構想を策定するにあたり、広く区民から意見を募るため「梅丘図書館機能検討ワークショップ」を2回に渡り開催しました。第1回ワークショップでは、新しい図書館に求める機能を討議し、第2回では、第1回で出された意見を深める討議と、テーマに沿って模型を使って形にするグループワークを行い、ワークショップを通じて、幅広い意見や提案が出されました。

(1) ワークショップの開催概要

○第1回梅丘図書館機能検討ワークショップ

日時 平成28年1月15日（金）19:00～21:00

場所 梅丘パークホール

参加者 70名

テーマ 「こんな図書館があるといいな」

○第2回梅丘図書館機能検討ワークショップ

日時 平成28年2月14日（日）13:00～16:00

場所 梅丘パークホール

参加者 59名

テーマ 「新しい梅丘図書館は、どんな特徴があるといいか考えよう」

(2) 2回のワークショップにおける意見概要

1. 「読む・知る」が充実した図書館

- ①本に囲まれて本を読める図書館
- ②貴重な蔵書、地域資料、子どもの本等の蔵書の充実
- ③バリアフリー対応の図書の充実
- ④電子図書、DVDといった多様な媒体による図書館資料の充実
- ⑤図書の案内の充実
- ⑥インターネット環境、Wi-Fi環境の整備や検索機能の充実
- ⑦貸出システムの充実

⑧利用者ニーズに対応した選書

2. 公園と一体となった図書館

- ①公園と図書館相互の魅力を活かした一体的な整備
- ②公園から出入りできるような整備
- ③公園とリンクした屋上の活用

3. コミュニティの場所としての図書館

- ①地域の人が多世代で交流できる場としての図書館
- ②おしゃべりしてもよい地域のリビングのような図書館
- ③図書館ならではのイベントがある図書館
- ④読書会や地域ボランティアが利用できる会議室の整備
- ⑤区民参加型のアイデアを取り入れた運営

4. 図書館の魅力を高めるプラスの機能

- ①多様な居場所があり、リラックスできる空間づくり
- ②音楽やアートの表現の場づくり
- ③飲食や買い物ができるカフェ等を整備
- ④開放的な明るい空間づくり
- ⑤街から館内までわかりやすいサインの充実
- ⑥便利な機能があり、安心して利用できる施設整備
- ⑦梅丘らしさのある図書館デザイン

5. 多様な利用者への配慮

- ①子どもに対する図書館サービスの充実
- ②誰にでも使いやすいユニバーサルデザインの充実
- ③図書館の利用を増やすためのしかけづくり

6. ゾーニング

○〈「読む・知る」が充実した図書館〉グループによる意見

- ①上層階に上がるに従い、「にぎやか」→「静か」というゾーニング
- ②「おしゃべり」と「静か」をすみわけるゾーニング
- ③階構成イメージ
 - 【1階】子どもたちを中心とした外からも見える「にぎやか」な場所
 - 【2階】図書館の中心となる一般図書コーナー
公園とエントランスの関係を活かした空間

【3階】上層階は静かな落ち着いた別荘のような空間
公園や緑が見えるイメージ

○〈コミュニティの場としての図書館〉グループによる意見

- ① 3階建ての2階部分で公園とつながるテラス空間を整備
- ② 建物の中央を貫通する階段を設置し、建物に入らず公園に行けるようにする
- ③ 階構成イメージ

【1階】エントランス

【2階】閲覧室

【3階】多目的ホール

④ 賑やかなゾーンと静かなゾーンの共存をめざす

- ・賑やかなゾーン：カフェ、ギャラリー、シアター、視聴覚室
- ・静かなゾーン：書架コーナー

○〈公園と一体となった図書館〉グループによる意見

- ① みんなに来てもらうしかけづくり
- ② 公園とつながった開放感
- ③ 公園側と道路側の二方向で入りたくなる入口
- ④ 斜面部分はコンクリートの擁壁でなく緑化を図る
- ⑤ 水景施設の導入

3-2 新しい梅丘図書館に関するアンケートの結果

本基本構想を策定するにあたり、梅丘図書館機能検討ワークショップと並行して、梅丘図書館利用者と梅丘中学校の職員・生徒を対象にアンケートを実施し、新しい梅丘図書館に関する意見を募りました。アンケート結果の概要は以下の通りです。

新しい梅丘図書館に関するアンケート 配布用紙

新しい梅丘図書館に関するアンケート

梅丘図書館の改築計画に利用者の皆さんのご意見をドンドン取り入れますので
アンケートにご協力ください！！

世田谷区立図書館

○アンケートを実施する期間 平成 28 年 1 月 28 日(木)～2 月 7 日(日)
 ○アンケートの対象者 中学生以上で梅丘図書館を利用されている方
 (「お住まいの範囲」、「利用者登録の有無」は問いません)

■あなたのことを教えてください。該当する項目に○をお願いします。■

1. 年齢は？

☐ 10 歳代 ☐ 20 歳代 ☐ 30 歳代 ☐ 40 歳代 ☐ 50 歳代 ☐ 60 歳代 ☐ 70 歳以上

2. お住まいは？


☐ 世田谷区 ☐ 松原 ☐ 羽根木 ☐ 代田 ☐ 世田谷区外 ☐ 23 区内 ☐ 町部外 ☐ 都外

3. ご職業は？

☐ 自営・自由業 ☐ 会社員・公務員 ☐ 主婦・主夫 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学等の学生 ☐ その他

4. 梅丘図書館を含む世田谷区立図書館のご利用頻度は？

☐ ほぼ毎日 ☐ 週に 3～4 回 ☐ 週に 1～2 回 ☐ 月に 1 回 ☐ 2 ヶ月に 1 回 ☐ 年に 3～4 回 ☐ 年に 1～2 回 ☐ 数年に 1 回



※裏面に続きます※

■ここからは図書館に関することをお聞きます。該当する番号に○をしてください。■

1. 新しい梅丘図書館で充実してほしい機能はなんですか？(複数回答可)

☐ ①蔵書数の増加 ☐ ②閲覧席の増加 ☐ ③児童書の充実 ☐ ④雑誌・新聞の充実
☐ ⑤地域資料の充実 ☐ ⑥電子資料の充実 ☐ ⑦インターネット環境の充実
☐ ⑧検索機能の向上 ☐ ⑨小中学校の図書室との連携
☐ ⑩その他(具体的に)

2. 新しい梅丘図書館で期待するサービスはなんですか？(複数回答可)



☐ ①予約サービスの向上 ☐ ②IC タグによる自動化サービス ☐ ③学習室の設置
☐ ④カフェなど交流スペースの設置 ☐ ⑤レファレンス(相談)サービスの向上
☐ ⑥研修室の設置 ☐ ⑦インターネットサービスの整備
☐ ⑧その他(具体的に)



3. 新しい梅丘図書館で積極的に取り組んでほしいことはなんですか？(複数回答可)

☐ ①カフェ等のくつろぎの場の設置 ☐ ②CD の充実
☐ ③文芸・趣味・娯楽・実用書などの充実 ☐ ④専門書や調べ物の本の充実
☐ ⑤開館日の増加 ☐ ⑥開館時間の延長
☐ ⑦講演会や大人向けの事業の充実 ☐ ⑧外国語の図書や利用案内など多文化サービスの充実
☐ ⑨おはなし会などの子どもサービスの充実 ☐ ⑩利用者同士の交流の場の設置
☐ ⑪レファレンスサービス(相談)の充実 ☐ ⑫図書館利用障害者サービスの充実
☐ ⑬その他(具体的に)

4. 新しい梅丘図書館へのご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。梅丘図書館は平成 34 年度の開館に向けて、準備を進めています。これからもみなさまのご協力をお願いいたします。

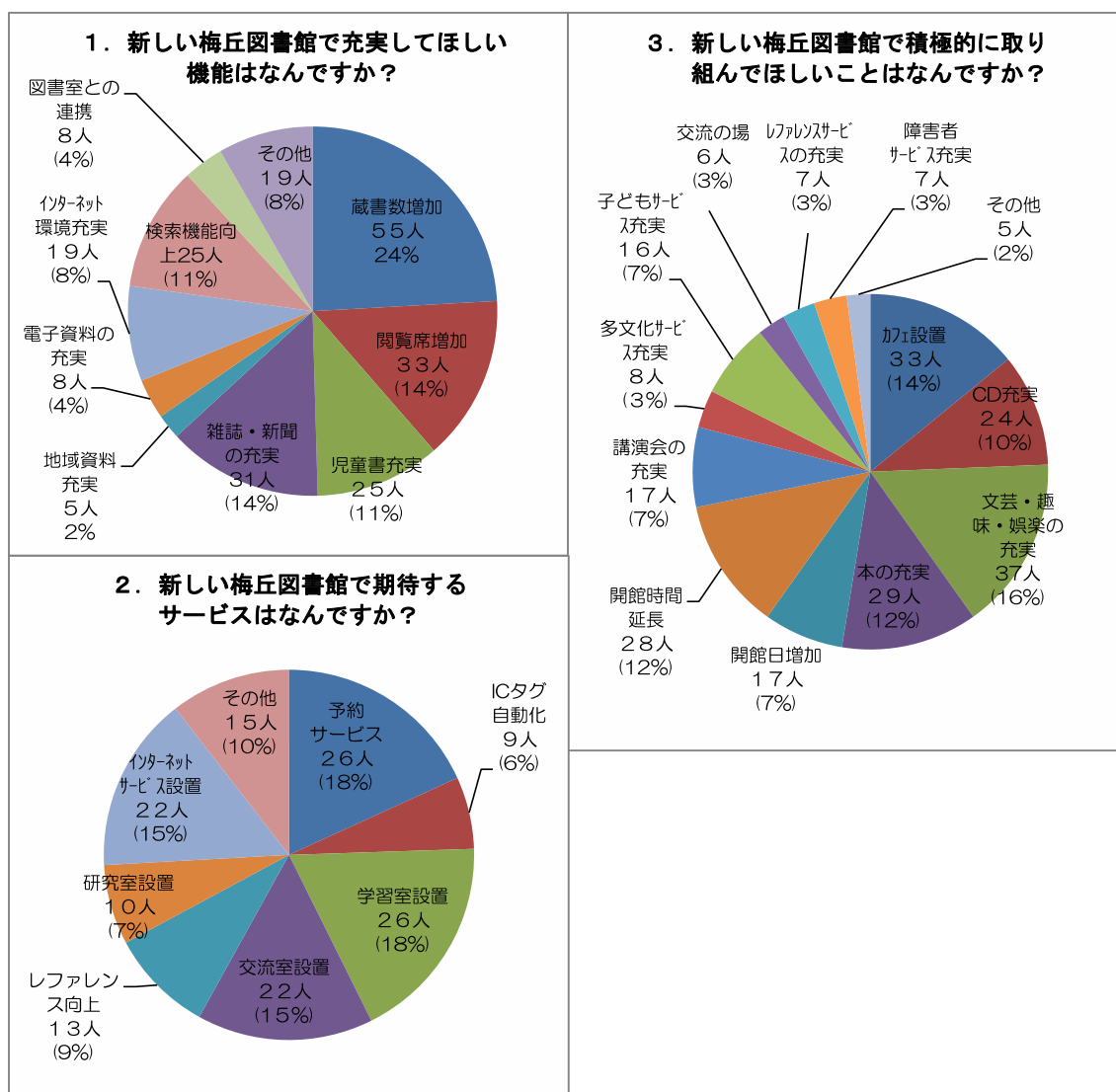



(1) 梅丘図書館利用者のアンケート結果 回答数：94 人

梅丘図書館利用者のアンケート結果のうち、充実してほしい機能としては「蔵書数の増加」が 24%で最も多く、「閲覧席の増加」と「雑誌・新聞の充実」が 14%で続きます。

期待するサービスとしては「予約サービスの向上」と「学習室の設置」が 18%で最も多く、「カフェ等交流スペースの設置」と「インターネットサービスの整備」が 15%で続きます。

積極的に取組んでほしいこととしては「文芸・趣味・娯楽の充実」が16%で最も多く、「カフェ等のくつろぎの場の設置」が14%で続きます。以下「開館時間の延長」や「本の充実」が12%となっています。

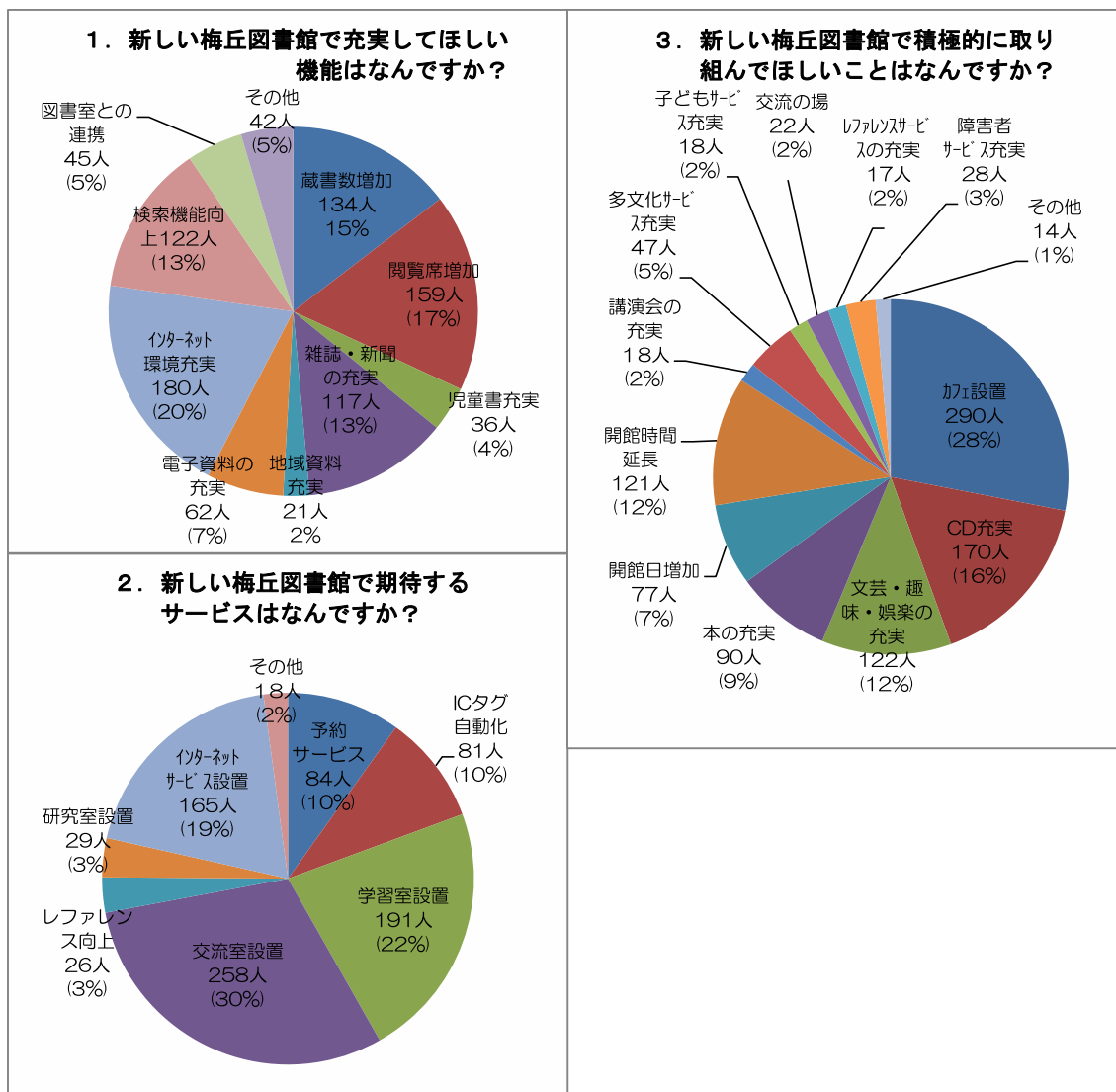


(2) 梅丘中学校のアンケート結果 回答数：403人（職員：14人、生徒389人）

梅丘中学校のアンケート結果の中のうち、充実してほしい機能としては「インターネット環境の充実」が20%で最も多く、「閲覧席の増加」が17%で続きます。以下「蔵書数の増加」が15%、「雑誌・新聞の充実」や「検索機能の向上」が13%となっています。

期待するサービスとしては「カフェ等交流スペースの設置」が30%で最も多く、「学習室の設置」が22%で続きます。以下「インターネットサービスの整備」が19%となっています。

積極的に取り組んでほしいこととしては「カフェ等のくつろぎの場の設置」が28%で最も多く、「CDの充実」が16%で続きます。以下「文芸・趣味・娯楽・実用書等の充実」や「開館時間の延長」が12%となっています。



以上、結果を見ると、梅丘図書館利用者、梅丘中学校ともに多くあった意見は、音響資料、雑誌・新聞も含めた図書館資料の充実、閲覧席の増加、インターネット環境、インターネットサービスの整備、カフェ等のくつろぎの場や交流スペースの設置、といった意見でした。

また、梅丘図書館利用者は、図書館の基本機能や運営体制の充実を望む意見が多いのに対し、梅丘中学校は図書館機能だけに限らず、インターネット環境・サービスの整備やカフェ等のくつろぎの場や交流スペースの設置といった多目的利用を望む意見が多く出されました。

4 . 梅丘図書館改築の基本方針

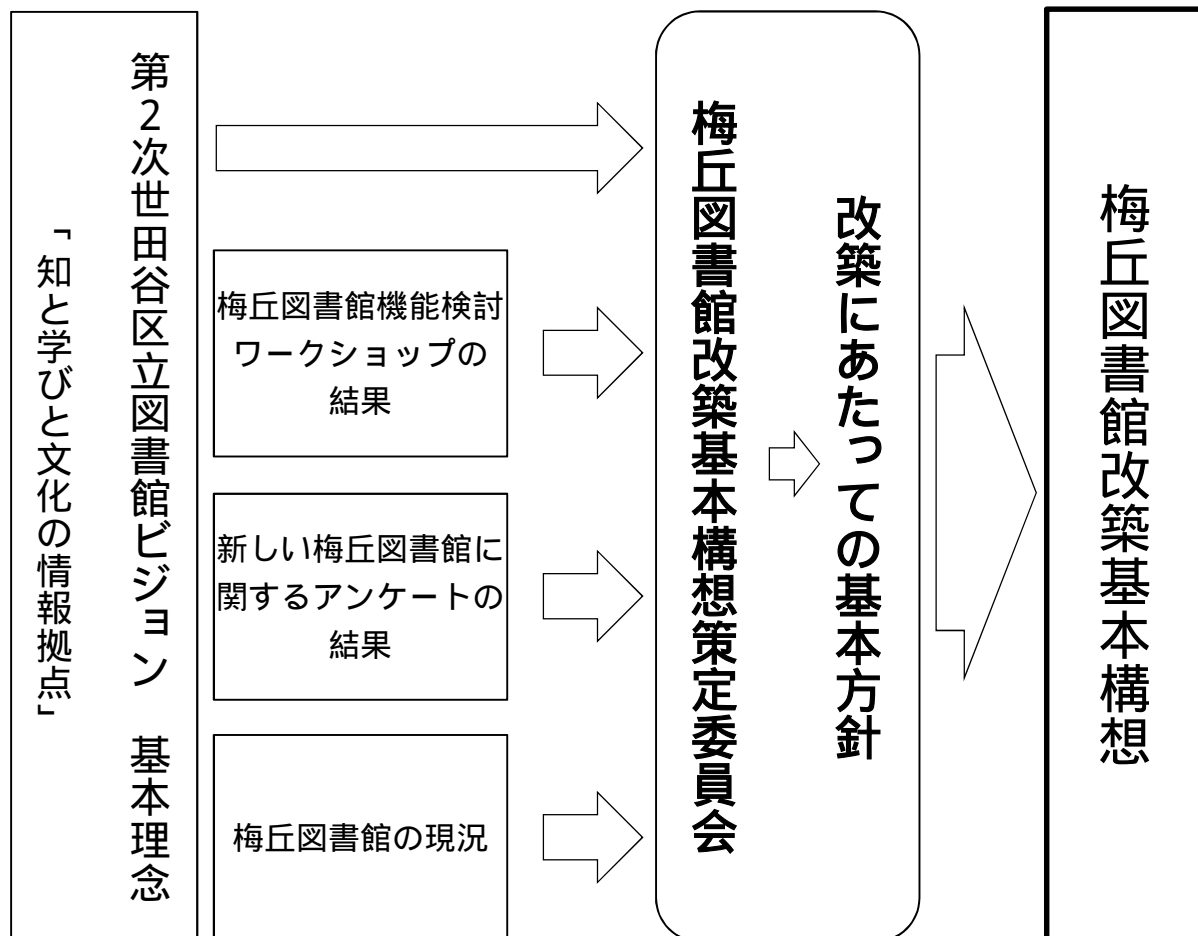
4 - 1 基本方針の視点

梅丘図書館の改築を進めるにあたっては、図書館ビジョンにおける基本理念の実現を目指し、基本方針を定め、今後検討を進める施設計画や運営計画の柱とします。

基本方針は、図書館ビジョンの基本理念や梅丘図書館機能検討ワークショップで集約した意見や要望、新しい梅丘図書館に関するアンケートの結果等とともに、梅丘図書館の地域特性や図書館を取り巻く周辺環境等の現況のまとめを踏まえながら、極力、具体的な内容となるようにまとめました。

梅丘図書館機能検討ワークショップや新しい梅丘図書館に関するアンケートを通して、梅丘図書館の普段からの利用者や、普段はあまり利用していない区民の方まで、幅広い意見や要望を募ることにより、新しい図書館に求められる役割や機能を把握し、基本方針のまとめに活かしました。

基本構想までの流れ



4-2 基本方針

ワークショップやアンケートの結果から、これまで大切にされてきた「本」を中心とした、知識や情報を提供する図書館の基本機能をより充実させる意見が多く出されました。一方で、子どもや子育て世代が気兼ねなく利用できる図書館や、地域コミュニティの場としての新たな機能を求める意見も多く出されました。

これらの意見を踏まえると、静かに読書や学習する「静」の空間と、子どもコーナーや地域コミュニティの場として会話や活動がある「賑」の空間が同居することになります。このように一見相反するような「静」と「賑」を包み込み、共存させることが新たな魅力となり、特色のある梅丘らしい図書館を目指します。

また、羽根木公園内に立地する図書館として、公園とのつながりを深める意見が幅広く出されました。公共施設として街や地域に積極的に貢献することや、公園と調和する一体となった図書館の整備が求められています。

以上を踏まえて、梅丘図書館改築の基本方針をまとめる上でのコンセプトを、「公園とふれあうみんなの図書館」とし、5つの基本方針を以下にまとめました。

基本方針のコンセプト 「公園とふれあうみんなの図書館」

基本方針① 子どもが本と出会え、誰もが利用しやすい親しみのある図書館

基本方針② 地域の活動拠点・交流拠点になる図書館

基本方針③ 知識や情報を提供する基本機能が充実した図書館

基本方針④ 羽根木公園とつながる図書館

基本方針⑤ みんなの居場所がある、居心地のよい図書館

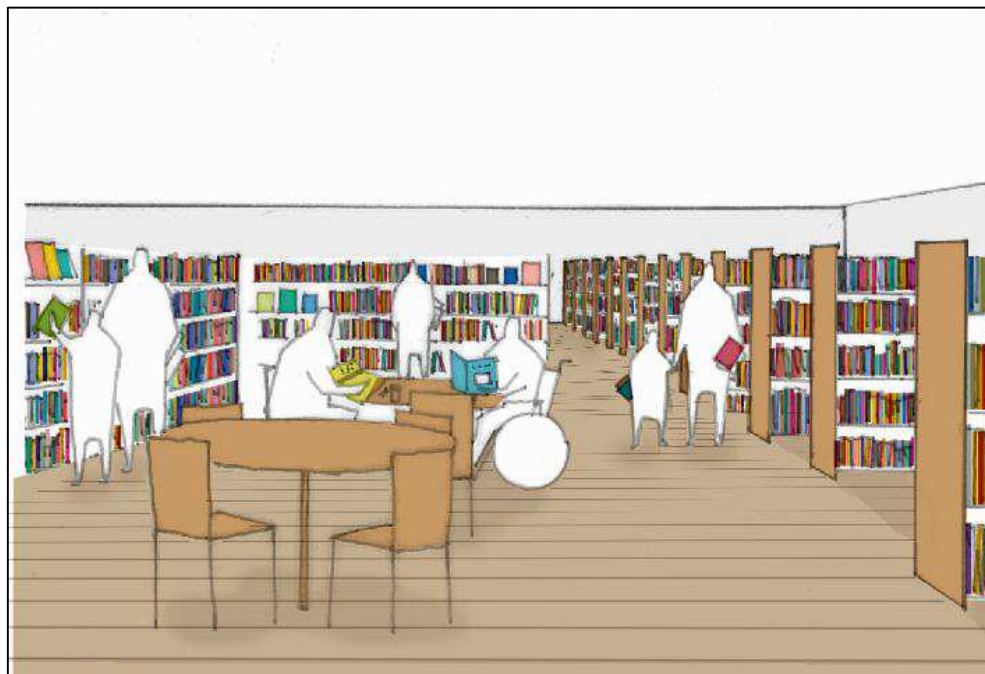
また、各基本方針は相関関係がありますので、方針ごとの実現を目指すのではなく、各方針の調和を図った図書館像の実現に向けて、今後調整を行っていきます。

基本方針① 子どもが本と出会え、誰もが利用しやすい親しみのある図書館

梅丘図書館周辺は、健康福祉の重点ゾーンである梅丘地区に立地しているため、多様な人々が利用しやすく、また利用したくなる図書館を目指します。

乳幼児のいる子育て世代が気軽に利用できるよう子どもサービスを拡充したり、0歳児からの子どもの読書を支援するため、「子どもコーナー」と「静かに利用する空間」とを分けるなど、子どもに優しい図書館を目指します。例えば、床に座ったり寝転んだりできるスペースやおはなし室を設け、さらに子ども用のトイレ、おむつ替え、授乳室等の設備の充実を図り、ベビーカーでの来館者に対応したスペースも確保します。また、ボランティア団体との連携にも積極的に取り組み、子どもへの読み聞かせやその保護者等を対象とした事業の充実を図ります。

子ども・高齢者・障害者・外国人等誰もが利用しやすいように、ユニバーサルデザインを取り入れ、利用者に応じた図書館サービスを充実させます。車いす使用者用駐車設備を設け、図書館内外の動線は、バリアフリーに対応した利用しやすい施設とします。館内の案内サインをわかりやすくするとともに、駅から図書館までの案内サインの充実を図ります。図書館サービスでは、対面朗読室を整備するほか、点字資料、大活字本、録音資料等の誰もが利用できるサービスの充実に努めます。



基本方針② 地域の活動拠点・交流拠点になる図書館

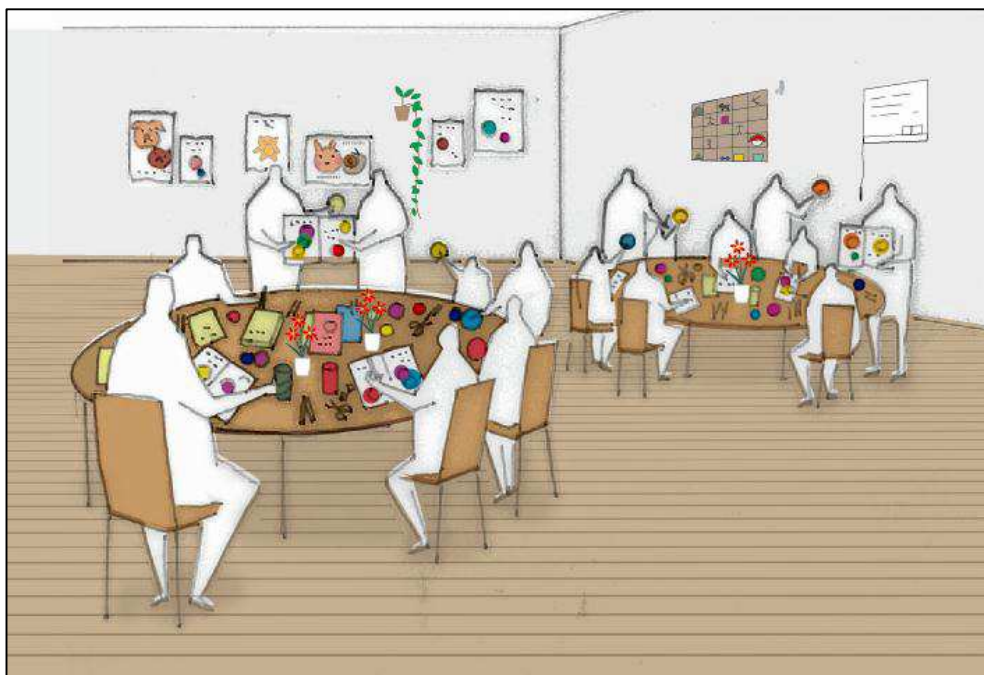
梅丘図書館は、地域文化に関する情報の収集・発信を行うとともに、地域の活動や交流を促進し、地域コミュニティの醸成に取り組みます。

新しい梅丘図書館では、ワークショップルーム、多目的ホールを活用した、区民が活動・交流できる場をつくります。読書会や朗読会等の図書資料を介した区民の交流を深める事業を推進するほか、地域の人々が図書館に訪れるきっかけとなるような講演会、音楽会、映画会といった事業の実施を視野に入れ、区民が集う場を設けます。

また、屋上等を活用した羽根木公園との一体的な広場整備を行い、「雑居まつり」等の羽根木公園内のイベントでも図書館が利用できるように工夫します。区民が集い、交流し、情報交換を行う場を設けることで、地域コミュニティの醸成を図ります。

さらに、新しい梅丘図書館では、区民ギャラリー等の区民活動を発信できるスペースを整備します。ギャラリースペースを活用し、区民が絵画や音楽といった文化芸術活動を発表し、また、地域で活動する団体が活動内容を発信することで、図書館が地域文化活動の発信・活動拠点となります。

図書館周辺はユニバーサルデザインの視点でまちづくりが進められており、ボランティア活動が盛んなまちであることから、地域で活動するボランティアの育成や支援に取り組みます。ボランティアがいつでも利用できる拠点を整備して、布絵本の作成・貸出、読み聞かせ、区民による選書、図書資料の翻訳や代読サービス、図書の案内係、みどり関係等のボランティア活動の場を提供し、地域に身近な図書館として、地域文化活動を積極的に推進します。



基本方針③ 知識や情報を提供する基本機能が充実した図書館

梅丘図書館は、広範なテーマに沿って多様な図書資料を収集し、充実した知識や情報を学ぶことができる図書館とします。

地域図書館である梅丘図書館は、貴重な本を扱う中央図書館との役割を分担して、区民の生活や仕事等に関するテーマを中心に蔵書の質を充実させるとともに、地域資料を積極的に収集します。

羽根木公園内に立地することから、「子どもの遊び」、「植物」、「郷土史」、「福祉」等の特徴を踏まえた、梅丘図書館ならではの特色ある資料の充実も図っていきます。また、これらの資料を電子化して広く人々に利用できるよう、情報発信することも視野に入れて取り組みます。

情報化の進展によるインターネット、タブレット、スマートホン等の普及に対応し、インターネット環境、無線LAN環境の整備を推進します。インターネット上での各種ウェブサイトで提供される情報を閲覧できるよう、来館者がインターネットを利用できる設備を整備し、レファレンス等への活用を図ります。さらに、図書資料として、従来の印刷媒体だけでなく、CD、DVD、電子書籍等の電子媒体も、区民のニーズを踏まえて整備を検討していきます。

区民の課題解決を支援するレファレンスサービスは、図書館において不可欠なサービスであり、その充実と利用促進を図ります。ホームページによる利用案内に加え、他の機関と連携した蔵書検索システムの導入を検討します。



基本方針④ 羽根木公園とつながる図書館

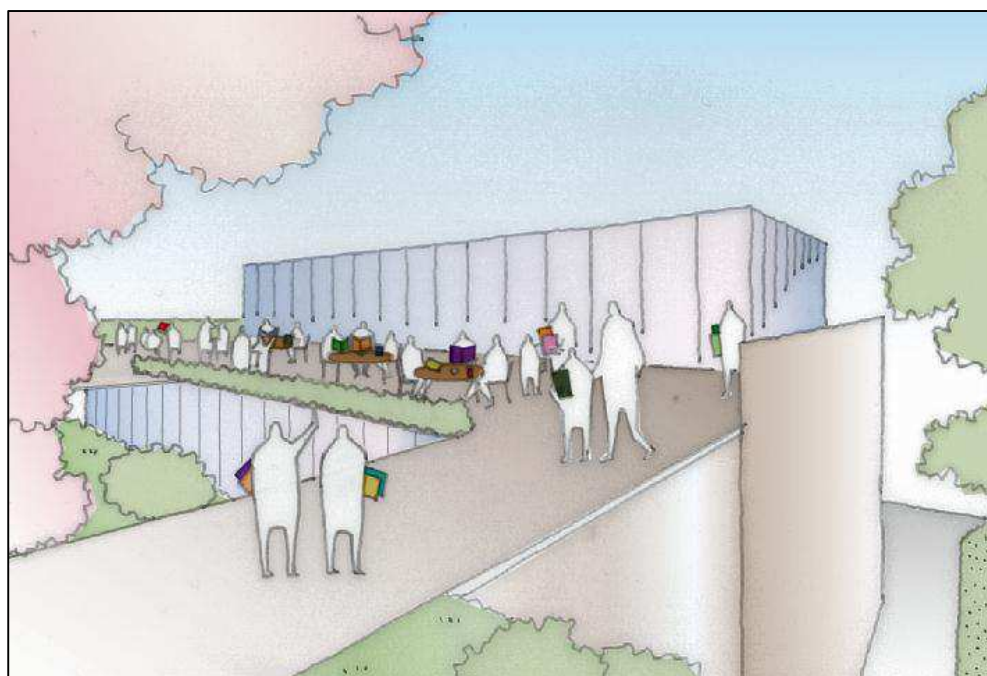
梅丘図書館は、羽根木公園内に位置しており、公園と図書館を一体的に整備して有機的なつながりを創出することで、互いの魅力を活かした相乗効果が期待できます。

梅丘図書館に公園側からの出入口を確保することにより、利用者の利便性向上や利用促進を図ります。羽根木公園と梅丘図書館の間が斜面になっていることから、図書館のテラスや屋上等を活用して、その間をつなぐ整備を行うことで、公園側から図書館に直接アクセスすることが可能となります。

公園を利用している人が、立ち寄れるようにもなり、図書館の利用促進につながります。公園と連続した広場を整備することで、屋外の緑豊かなテラスやデッキで読書できるスペースを設け、図書館が実施するイベントにも利用できるように整備します。また、緑豊かな公園と一体的な景観を形成するため、施設の緑化だけでなく、斜面の擁壁や外構においても積極的に緑化します。

羽根木公園では、梅まつり等のイベントが開催され、多くの区民が公園を訪れます。図書館の屋上を活用し、公園のイベントにも利用できるようにします。

また、梅ヶ丘駅側から羽根木公園を利用する際に、高低差がありアクセスしづらいことから、館内設置のエレベーターを公園へのバリアフリー動線としても活用できるよう検討します。



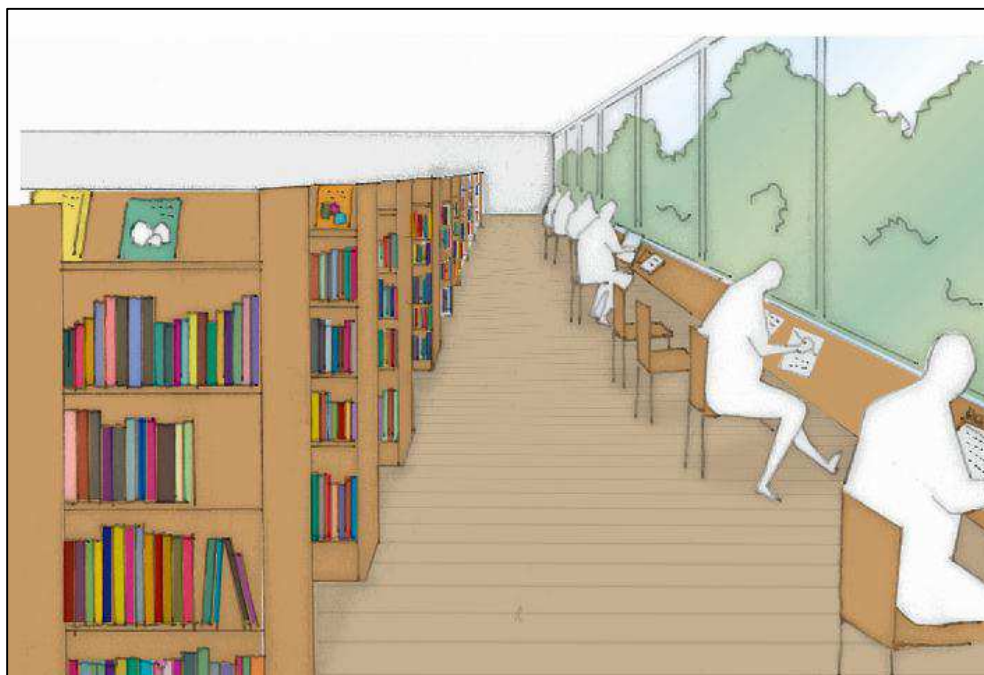
基本方針⑤ みんなの居場所がある、居心地のよい図書館

梅丘図書館は、区民が知識や情報、学習、交流等それぞれの目的で利用する施設として長く滞在すること多いことから、利用者が快適に安心して過ごすことができる空間や環境を整備します。

蔵書が充実した図書館を目指すため、図書館の核となる一般図書コーナーは、本に囲まれた空間イメージを重視した施設づくりに努めます。一般図書コーナーは、階の上下移動が不要な見通しの良いワンフロアでまとめた構成とし、利便性を高めます。また、書架付近には本や雑誌等を広げられる閲覧席を設け、書架や閲覧席の配置を工夫します。

羽根木公園に囲まれた緑豊かな環境を活かし、館内のどこからでも公園の緑を眺められる居心地のよい空間をつくります。緑を取り込んだ窓際の席や、公園の自然を感じられる屋外のテラス席、グループ学習ができるようなテーブル席、自習するための学習席、ゆったりしたソファ席等、多様なバリエーションの閲覧席を配置し、利用者が思い思いの居場所でくつろげる空間を提供します。

さらに図書館でゆっくり過ごすため、飲み物を提供するカフェや売店等と、飲食できるコーナーを整備します。また、区民が集って話をしながら情報交換できるスペースや、読書や学習するための静かなスペース等、様々な目的を持つ利用者同士がともに過ごせる快適な図書館を目指します。



5. 梅丘図書館の施設整備に関する考え方

5-1 施設整備に関する条件

(1) 敷地の概要

図書館ビジョン及び第1期行動計画では、平成27年度以降、梅丘図書館の改築に向けた取り組みが定められていることから、既存施設を解体撤去し、新築することを前提とします。

所在地	世田谷区代田四丁目 38 番 10 号
敷地面積	約 2,615 m ² (羽根木公園全体 79,650.71 m ²)
地域・地区	第一種中高層住居専用地域
	準防火地域
	30m 第1種高度地区
指定建ぺい率	60%
指定容積率	150%
日影規制	3 時間－2 時間 測定面 4 m
都市計画公園	区立羽根木公園

(2) 主な関係法令、条例等

施設整備にあたり、遵守すべき主な関係法令、条例は以下の通りです。

- ・ 建築基準法
- ・ 景観法
- ・ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）
- ・ 騒音規制法
- ・ 振動規制法
- ・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）
- ・ エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネルギー法）
- ・ 都市計画法
- ・ 消防法
- ・ 都市の低炭素化の促進に関する法律（エコまち法）
- ・ 都市公園法

東京都条例

- ・ 東京都建築安全条例
- ・ 東京都下水道条例
- ・ 東京都駐車場条例
- ・ 東京都における自然の保護と回復に関する条例
- ・ 東京都火災予防条例
- ・ 東京都日影による中高層建築物の高さの制限に関する条例
- ・ 東京都高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例

世田谷区条例等

- ・ 世田谷区ユニバーサルデザイン推進条例
- ・ 世田谷区風景づくり条例
- ・ 世田谷区みどりの基本条例
- ・ 世田谷区環境基本条例
- ・ 世田谷区中高層建築物等の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例
- ・ 世田谷区建築物の建築に係る住環境の整備に関する条例
- ・ 世田谷区街づくり条例
- ・ 世田谷区高齢者、障害者等が安全で安心して利用しやすい建築物に関する条例
- ・ 世田谷区清掃・リサイクル条例
- ・ 世田谷区建築基準法施行細則
- ・ 世田谷区雨水流出抑制施設の設置に関する指導要綱
- ・ 世田谷区建築物等の解体工事等の事前周知に関する指導要綱
- ・ 世田谷区建築物浸水予防対策要綱
- ・ 世田谷区立公園条例

5-2 施設整備に関する考え方

梅丘図書館改築にあたっての施設計画で配慮すべき項目を以下に整理します。

（１）ユニバーサルデザインへの対応

- ・ 『世田谷区ユニバーサルデザイン推進条例』を遵守します。
- ・ 「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインに基づいた施設整備を実現します。
- ・ わかりやすい空間構成・動線計画・サイン計画に努めます。

（２）安全で衛生的な施設

- ・明確な避難動線、防火・防煙区画に配慮します。
- ・区民が利用する公共施設として十分な耐震性を確保します。
- ・屋上や吹抜、書架等の高所からの落下防止対策に配慮します。
- ・貴重な図書資料を保管するための適切な温湿度を維持する計画とします。
- ・適切な自然採光・通風・換気に配慮します。

（３）地球環境に配慮した施設

- ・『環境基本条例』『風景づくり条例』を遵守します。
- ・『公共施設省エネ指針（平成２０年３月）』に基づく計画とします。
- ・『世田谷区みどりの基本条例』等を遵守し、緑化に配慮した計画とします。
- ・熱帯林の保護に寄与するよう木材等の採用に配慮します。
- ・廃棄時にリサイクルしやすい材料を選択します。

（４）周辺環境への配慮

- ・周辺と調和する景観デザインに配慮します。
- ・周辺道路・緑道との一体整備に取り組みます。
- ・近隣への日影・騒音・光の反射・臭気を少なくするよう配慮します。
- ・プライバシーの保護に配慮します。
- ・建物周辺の植栽及び屋上・壁面を緑化し、公園との連続性や緑豊かな街並みを創出します。

５－３ 施設整備内容のイメージ

施設の導入機能については、具体的には基本設計以降の検討となりますが、以下に基本方針から導かれる主要なゾーン別の整備内容を整理します。

以下の内容は整備イメージですが、極力実現できるよう今後調整を図っていきます。

（１）閲覧貸出部門

①一般図書コーナー

○使いやすい書架レイアウト・書架デザイン

- ・書架に十分な照度を確保します。
- ・大地震に備えて書架の耐震化を図ります。
- ・閲覧席は書架の近くに配置し、相互の利便性の向上を図ります。

○蔵書の充実

- ・区民の要望・期待に即した蔵書構成に配慮したうえで蔵書数の充実を図ります。
また、可能な限り広い収納スペースを確保します。
- ・娯楽・教養・趣味・学習・実用等に資する基礎的、入門的な資料を中心としますが、希少本や貴重本の収集にも努めます。

○読書に集中できる静かなゾーンと会話程度の声であれば声を出してもよいゾーンとを分けたゾーニングとします。

○多様なバリエーションのある閲覧席

- ・天候不順に配慮したテラス席等の外部閲覧席を設置します。
- ・読書とあわせて公園の緑も楽しめるよう、窓に面した閲覧席も設けます。

○梅丘図書館の特色の一つである学習室（自習室）の設置を検討します。

○木材を多く用いた書棚を配置する等、閲覧ゾーンを木のぬくもりが感じられるものにします。

○羽根木公園の緑を取り込んだかのような緑あふれる空間づくりに努めます。

○利用者自らが操作することで、資料の迅速な貸出を可能にする自動貸出機、返却機の設置を検討します。

○商用コンテンツを来館者へ開放する等のインターネット端末の充実を図ります。

○インターネット利用席や AV ブース席の設置を検討します。

○区民がつくる「区民の本棚コーナー」の導入を検討します。

②新聞・雑誌コーナー

○出来る限り長い期間の新聞縮小版を開架で利用できるようにします。

○雑誌等のバックナンバーを充実させます。

○政党・業界団体が発行する新聞やスポーツ紙、海外の新聞・雑誌の充実を図ります。

③子どもコーナー

○子どもが声を出して本を読むことができ、遊び声も容認されるようなゾーニングとします。

○窓越しに公園が眺められ、屋外の柔らかな自然光が室内に取込めるよう配慮します。

- 児童書や育児書等が揃えてあり、靴を脱いでゆったりと読書や読み聞かせができる「おはなし室」を設置します。
- 授乳やおむつ替えのできる部屋、器具類が子どもの使用できるサイズのトイレやエントランス付近にはベビーカー置場を設置する等、子どもや保護者が利用しやすい設備にします。

④地域資料コーナー

- 梅丘図書館ならではの図書資料の充実
 - ・まちづくりや子育て等の地域活動を記録する資料や郷土史や風俗について研究した資料等の収集に努めます。
 - ・羽根木公園や図書館界わいの医療機関、教育施設にまつわる資料等、多様な資料、情報の収集、集約に努めます。

⑤バリアフリー対応

- 対面朗読室の設置
 - ・空調及び音響設備の音に配慮する他、自然光の取り入れにも工夫した対面朗読室とします。
 - ・朗読録音機能や音声読上げ機器の設置により、多目的に利用できる装備がある朗読室にします。
- 拡大読書器や点字図書の導入を検討します。

（２）閉架書庫部門

- 公開書庫として対応できるような仕様とします。

（３）区民活動・交流部門

①多目的室・ワークショップルーム

- 読書会やグループ学習への対応を想定した備品、什器類を整備します。
- 図書資料や地域特性にまつわるセミナーや、映画会等で利用できるスクリーンや映像設備を整備します。
- 子どもから高齢者まで多世代の交流ができるスペースを確保します。
- 羽根木公園のイベントと連携しやすい諸室の配置や公園側への動線を確保します。

②ボランティアルーム

- ボランティア団体の活動拠点として、利用しやすい備品、什器類を整備します。
- 羽根木公園との位置関係を考慮し、公園で活動するボランティア団体との連携を視野に入れて整備します。

③区民ギャラリー

- 常設ギャラリーの他に図書館全体をギャラリーとして活用できるように整備します。

（４）管理運営部門

①事務室・作業室

- 総合カウンターに隣接して設け、バックヤードとの動線は極力短くなるように配置します。
- 更衣室、給湯室、清掃員作業室、職員用トイレは、最低限必要な床面積で整備します。

②レファレンス機能

- 独自コンテンツと商用コンテンツを複合的に活用する効果的なレファレンスサービスの展開を図ります。

③サイン

- 図書館内については「世田谷区立図書館サイン計画」に基づいて対応します。
- 図書館への案内表示については「梅ヶ丘駅～豪徳寺駅・山下駅界わいユニバーサルデザイン計画」に基づく整備にあわせて取り組みます。

（５）共用部門

①エントランス・エントランスホール

- 道路側と羽根木公園側の２方向にエントランスを設置します。
- 羽根木公園を眺められる吹抜のあるエントランスホールを検討します。
- セキュリティシステムを導入し、ブックポストを設置します。
- 木のぬくもりが感じられるエントランスを検討します。

②喫茶スペース・ショップ

- カフェ等の飲み物を提供する場を設けるとともに、持ち込み可能で飲食もできる休憩スペースの設置を検討します。
- 休憩スペースは、居心地がよく、長時間の滞在が可能な空間を演出します。
- カフェ等の飲み物を提供する場において障害者雇用を検討します。

③トイレ

- 各階に「だれでもトイレ」を設置します。

④階段

- ゆとりある寸法、滑りにくい材料を採用して利用しやすい階段とします。

⑤エレベーター

- 羽根木公園へのアクセスにも終日利用できるように配慮します。

⑥駐車場

- 雨除けに配慮した車いす使用者用駐車設備、管理用駐車設備を確保します。
- 本の集配やゴミの収集等で利用する雨に濡れない荷捌きスペースを確保します。

⑦駐輪場

- 利用者用と職員用を分けて十分なスペースを確保します。

⑧屋上の活用

- 羽根木公園と一体となったブリッジ又はテラスを設置し、公園と図書館の行き来ができるようにします。
- 武蔵野の植生に配慮した屋上緑化と、緑化による日射の熱負荷低減を図ります。
- 晴れた日に登ると富士山が望める展望スペースの設置を検討します。
- 羽根木公園で開催される雑居まつり等で利用できる広場スペースの確保を検討します。

⑨擁壁

- 擁壁の緑化や傾斜面にも補植を行い、羽根木公園側の景観に配慮します。

⑩前庭・広場

- 高齢者や車いす利用者等が乗用車で来館することを想定し、一時駐車ができる乗降スペースの設置を検討します。
- エントランスへのアプローチは斜度がゆるくバリアフリー化された動線を整備します。

5-4 全体構成の方針

図書館ビジョン及び基本方針の実現に向けて、施設の全体構成の方針を以下の通り設定します。

（１）羽根木公園とつながる

- ①羽根木公園の緑豊かな環境を室内に取り込みます。
- ②テラス等の外部空間を設け、身近に公園の自然を体感できる計画とします。
- ③羽根木公園と図書館の間をつなぐデッキを整備します。
- ④緑豊かな羽根木公園と調和するように、敷地内の緑化に積極的に取り組みます。

（２）静かなゾーンと賑やかなゾーンをゾーニングする

- ①静かなゾーンと賑やかなゾーンを、フロアを分けてゾーニングします。
- ②静かなゾーンは主に一般図書コーナーで、静かにゆっくり読書ができる空間のイメージです。
- ③賑やかなゾーンは、主に子どもコーナー、交流機能、カフェ等で会話や活動がある空間のイメージです。

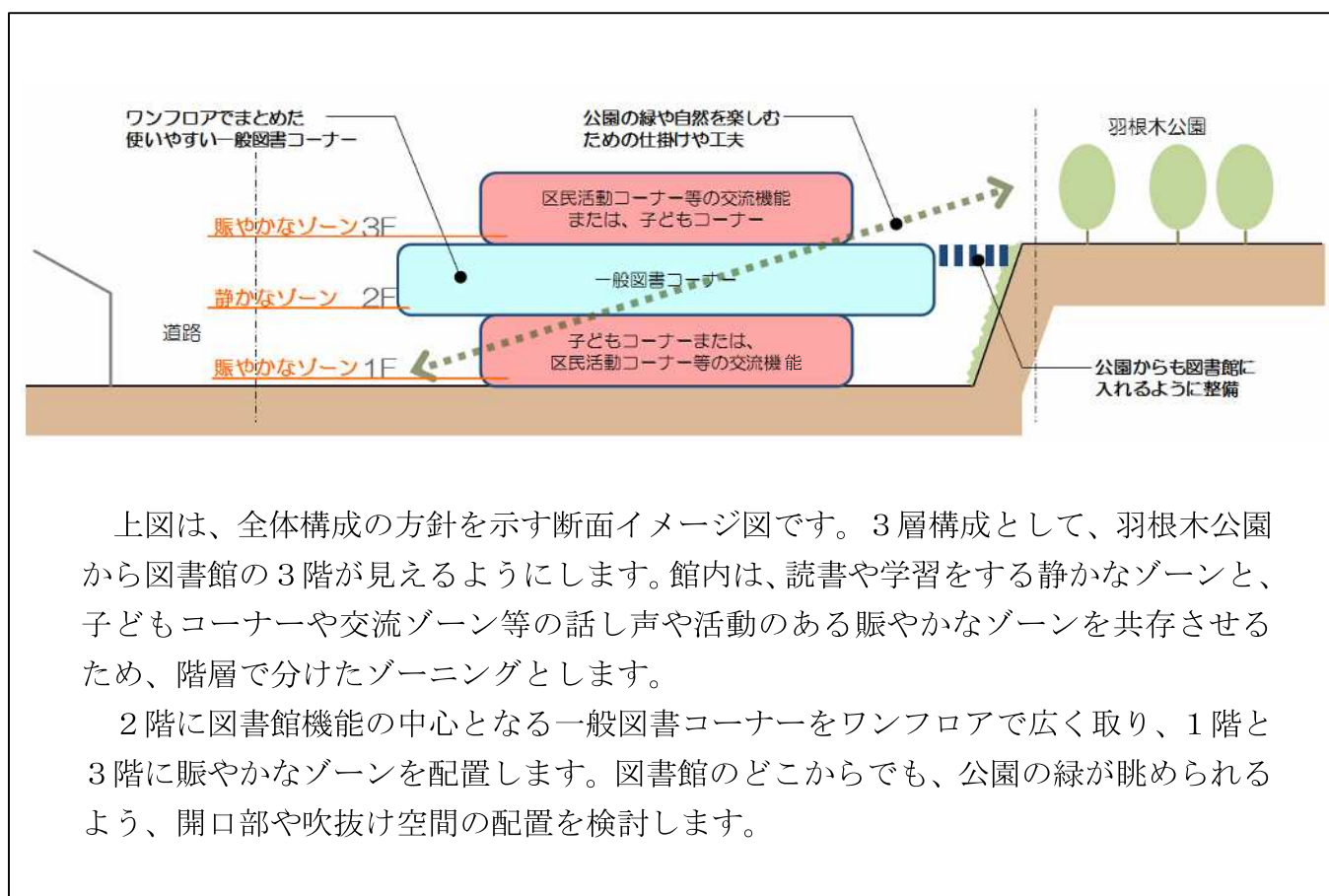
（３）ユニバーサルデザイン・バリアフリー

- ①誰もが利用しやすい施設として、ユニバーサルデザイン・バリアフリーを推進します。
- ②羽根木公園へのバリアフリー動線対応等、街の環境整備にも取り組みます。
- ③サインの多言語対応を含め、誰もがわかりやすく見やすいサイン計画とします。

（４）交流の拠点や区民ギャラリー、カフェ等の魅力づくり

- ①交流拠点、区民ギャラリー、カフェ等を１階または３階に整備します。
- ②これらのゾーンは、外部から活動や賑わいが見えるような計画とします。

図3 全体構成の方針 断面イメージ図



上図は、全体構成の方針を示す断面イメージ図です。3層構成として、羽根木公園から図書館の3階が見えるようにします。館内は、読書や学習をする静かなゾーンと、子どもコーナーや交流ゾーン等の話し声や活動のある賑やかなゾーンを共存させるため、階層で分けたゾーニングとします。

2階に図書館機能の中心となる一般図書コーナーをワンフロアで広く取り、1階と3階に賑やかなゾーンを配置します。図書館のどこからでも、公園の緑が眺められるよう、開口部や吹抜け空間の配置を検討します。

5-5 ゾーニング案

全体構成の方針に基づき、図書館のゾーニングとして以下の2案にまとめました。

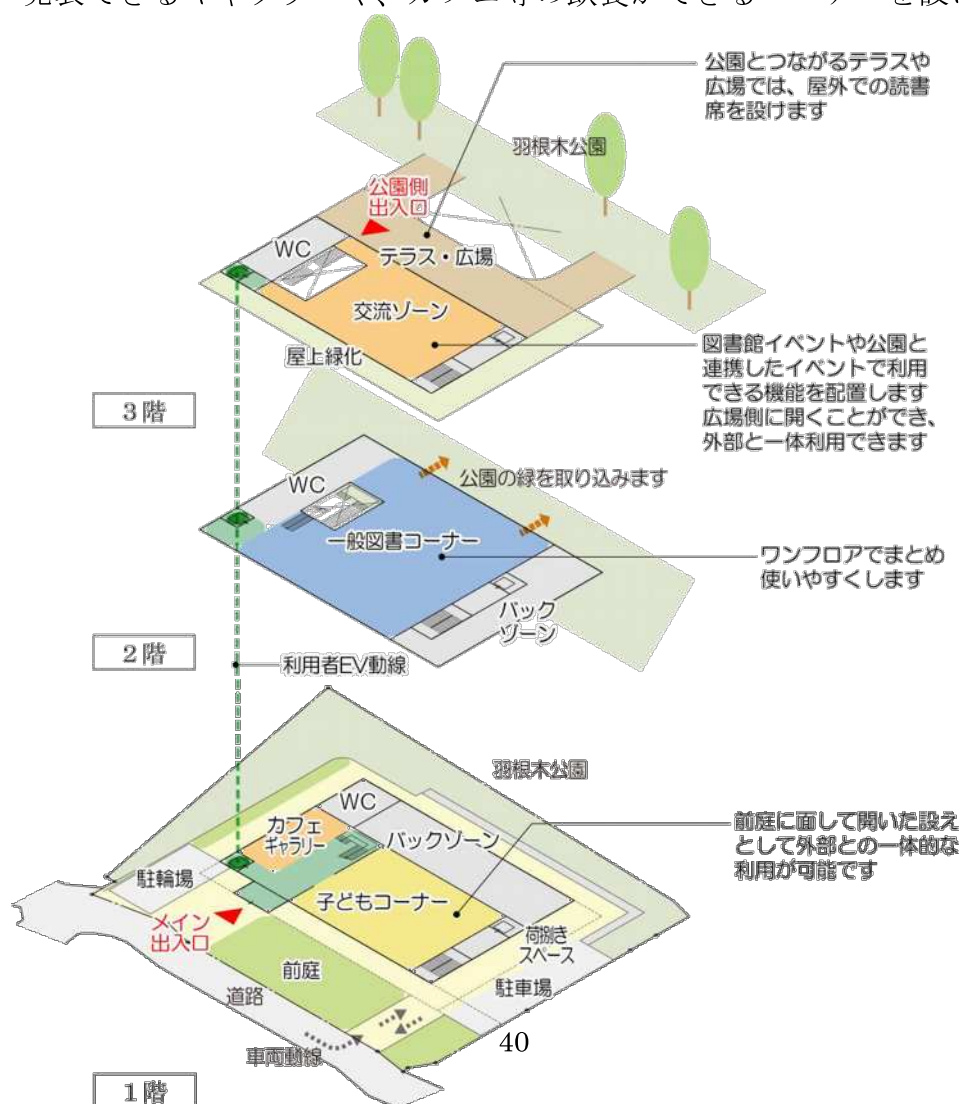
ケース1

ケース1の特徴は、羽根木公園とつながる3階に配置した交流ゾーンです。公園と連携する機能として、イベントで利用できるテラスや広場、広場と一体的な利用もできる多目的室またはホール、ボランティアルーム等の交流機能を配置します。

【3階】公園から出入口を設け、交流ゾーンを配置します。テラスや広場には、緑や光があふれる快適な読書席を整備します。

【2階】一般図書コーナーをワンフロアにまとめ、上下階の移動をなくし、利用者の利便性に配慮します。閲覧席は分散配置して、多様な種類の快適な閲覧席を設けます。

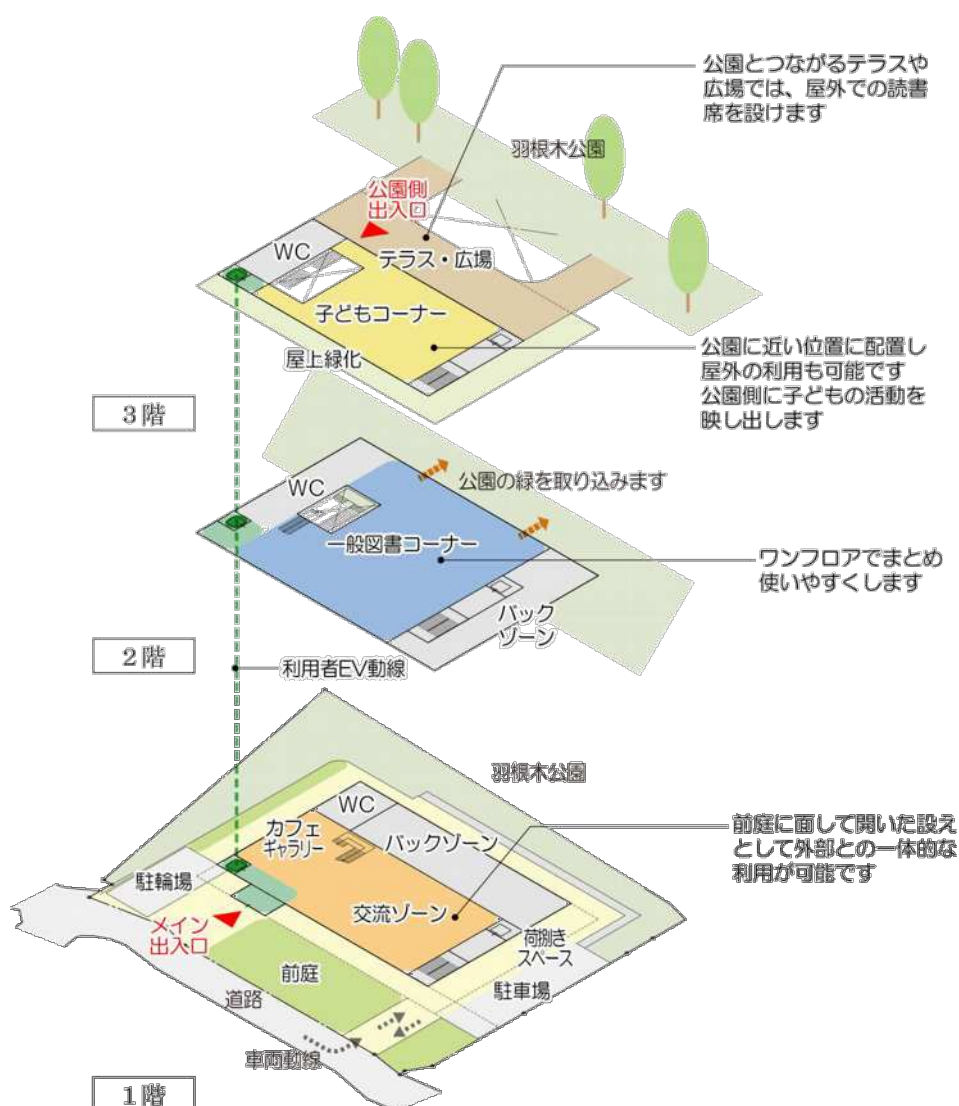
【1階】子どもコーナーは、子育て世代が気軽に利用できるように、一般図書コーナーとは階を分けて、アクセスしやすい1階に配置します。区民がアート等を発表できるギャラリーや、カフェ等の飲食ができるコーナーを設けます。



ケース 2

ケース 2 の特徴は、羽根木公園とつながる 3 階に配置した子どもコーナーです。十分なスペースが確保でき、公園や羽根木プレーパーク等から利用しやすく、自然を身近に感じられる豊かな読書空間となります。公園からは子どもたちの活動を垣間見ることができます。

- 【3階】公園から出入口を設け、子どもコーナーを配置します。テラスや広場は子どもが楽しめる空間とし、快適な屋外の読書席を設けます。
- 【2階】一般図書コーナーをワンフロアにまとめ、上下階の移動をなくし、利用者の利便性に配慮します。閲覧席は分散配置して、多様な種類の快適な閲覧席を設けます。
- 【1階】エントランスホールと一体となった交流ゾーンやカフェを配置して、来館者に地域文化や、ボランティア活動等の情報発信を行い、前庭との間を開放できるようにして、内外の一体利用も可能とします。



6. 梅丘図書館改築にあたっての今後の留意事項

施設整備の方針を踏まえ、今後、基本設計を進めるに際して、特に留意すべき事項を以下にあげます。

- ①北側の斜面が崩れないようにするため、工事手順等も踏まえ、解体工事から開館後までの羽根木公園側も含めた安全対策が必要です。
- ②世田谷区では既存樹木の保全誘導方針を定めており、敷地内の既存樹木を積極的に活かす配慮が必要です。
- ③敷地北側に位置する赤道の取り扱いについて、建築基準法上の確認をする必要があります。
(赤道とは、道路法・河川法等の適用又は準用を受けない公共物のうち、現に公共的な用途に使用されていないもの（旧法定外公共物）の中で、機能を喪失した里道のことを指します。旧法定外公共物は財務省が管理しているため、境界確定や購入を行う際は手続きを要します。)
- ④羽根木公園との接続に必要な条件を整理する必要があります。接続の際は公園側についても梅の植樹や通路幅の拡張等を行い、公園⇄図書館間の新たな人の流れが生まれるような計画が望まれます。
- ⑤周辺環境への配慮として、工事期間中から開館後に至るまで、騒音、振動、臭気、土埃、プライバシー等への配慮が必要です。さらに、区民に親しまれ、地域の誇りとなる図書館を目指し、場所の記憶をつなぎ周辺環境と調和する風景づくりが望まれます。
- ⑥閉館時においても、館内設置のエレベーターを羽根木公園へのアクセスに利用できるように、シャッター等により図書館ゾーンと分けて運用できるような工夫が必要となります。
- ⑦掃除のしやすさや材料の耐久性に配慮した維持管理しやすい施設づくりが必要です。
- ⑧今後、蔵書が増加することや情報通信技術（ICT）が進展することを考慮し、ゆとりあるスペースの確保が望まれます。

- ⑨地盤の形質を変更し、開発行為の許可が必要な場合には、手続きに時間を要するため、設計から施工までのスケジュール管理に留意する必要があります。
(都市計画法第 29 条ただし書きにより、用途が図書館の場合には、許可にかかる手続きが除外されている旨の確認が必要です。)
- ⑩環境負荷低減技術は、低コストで効果的な技術を優先的に採用し、適切なイニシャルコストとライフサイクルコストの縮減が図れるような検討が必要です。
- ⑪本計画規模は、概ね 2,000 m²程度の延床面積が望まれます。
(ワークショップやアンケートで区民から意見の多かった蔵書の充実や地域コミュニティの機能、カフェ等の新たな機能の整備を考慮すると、概ね 2,000 m²程度の延床面積は必要と思われます。ただし、都市公園法及び、世田谷区立公園条例における公園施設の設置基準による、建築面積の制限に留意が必要です。)
- ⑫羽根木公園の元となる「根津山」の名を語り継ぎ、その歴史的背景や地域性が継承される仕掛けの検討が望まれます。
- ⑬本計画においては、関係各課との連携や協力体制を築き、図書館だけでなく羽根木公園も含めた一体的な整備を行う事が必要です。

資料編

1. 梅丘図書館改築基本構想策定委員会設置要綱

梅丘図書館改築基本構想策定委員会設置要綱

平成 27 年 10 月 1 日

27 世教中図第 218 号

(目的及び設置)

第 1 条 梅丘図書館（以下「図書館」という。）の改築にあたり、保健福祉の街づくり重点ゾーンやユニバーサルデザイン環境整備推進地区である周辺環境と一体的で、魅力的な利用満足度の高い図書館サービスを提供するため、図書館改築のあり方を定める図書館改築基本構想の策定に向けた検討を進めることを目的として、梅丘図書館改築基本構想策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、図書館改築に関し、次の事項について検討し、その結果を教育長に報告する。

- (1) 図書館の改築に向けて基本構想を取りまとめること。
- (2) 建設基本計画及び設計に係る条件整理をすること。
- (3) その他、図書館の運営などに関すること。

(組織等)

第 3 条 委員会は、別表第 1 に掲げる者をもって組織する。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により決定する。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指定する委員がその職務を代行する。

(会議)

第 5 条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会は、過半数以上の委員の出席がなければ開催することができない。
- 3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

- 4 委員会は、必要があると認めたときは、委員会以外の者の出席を求めて、意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、教育政策部中央図書館に置く。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成27年10月1日から施行する。
- 2 この要綱は、本件基本構想の報告終了日をもって廃止する。

別表第1（第3条関係）

選 出 区 分	人 数
学識経験者	2 人
地元代表	4 人
地元小中学校長	2 人
図書館利用者代表	1 人
区職員	4 人
計	13 人

2. 梅丘図書館改築基本構想策定委員会名簿

◎：委員長

選 出 区 分	職 名 等	氏 名	人 数
学識経験者	文教大学事務局長 和光大学非常勤講師	戸 田 あきら 仁 上 幸 治	2 人
地元代表	梅丘 1 丁目町会長 代田自治会長 松原五・六丁目自治会長 梅丘商店街振興組合代表	野 武 一 郎 長 井 邦 雄 池 田 洋 宍 戸 善 幸	4 人
地元小中学校長	梅丘中学校長 代田小学校長	伊 藤 聡 保 井 上 洋 美	2 人
図書館利用者代表	グレーテルの会 代表	宇田川 美登利	1 人
区職員	教育長 北沢総合支所長 教育政策部長 施設営繕第二課長	◎ 堀 恵 子 菊 池 弘 明 進 藤 達 夫 佐 藤 絵 里	4 人
計			13 人

3. 梅丘図書館改築基本構想策定委員会概要

第1回梅丘改築基本構想策定委員会

- 日時 平成27年12月17日（木）9：30～11：30
- 会場 ブライトホール
- 議題
- ・第2次世田谷区図書館ビジョンについて
 - ・梅丘図書館の現状及び図書館周辺の地域特性について
 - ・有識者委員からの講話
 - ・意見交換 など

第2回梅丘改築基本構想策定委員会

- （第1回梅丘図書館機能検討ワークショップと同時開催）
- 日時 平成28年1月15日（金）19：00～21：00
- 会場 梅丘パークホール
- 議題
- ・第1回梅丘図書館機能検討ワークショップ
グループワーク テーマ「こんな図書館があるといいな」

第3回梅丘改築基本構想策定委員会

- （第2回梅丘図書館機能検討ワークショップと同時開催）
- 日時 平成28年2月14日（日）13：00～16：00
- 会場 梅丘パークホール
- 議題
- ・第2回梅丘図書館機能検討ワークショップ
グループワーク テーマ「新しい梅丘図書館は、どんな特徴があるといいか考えよう」

第4回梅丘改築基本構想策定委員会

- 日時 平成28年3月30日（水）10：00～11：35
- 会場 世田谷区役所第一庁舎1B1会議室
- 議題
- ・有識者委員からの講話
 - ・梅丘図書館改築基本構想（素案）について

梅丘図書館機能検討 ワークショップ 報告書

平成 28 年 3 月
世田谷区立中央図書館

目次

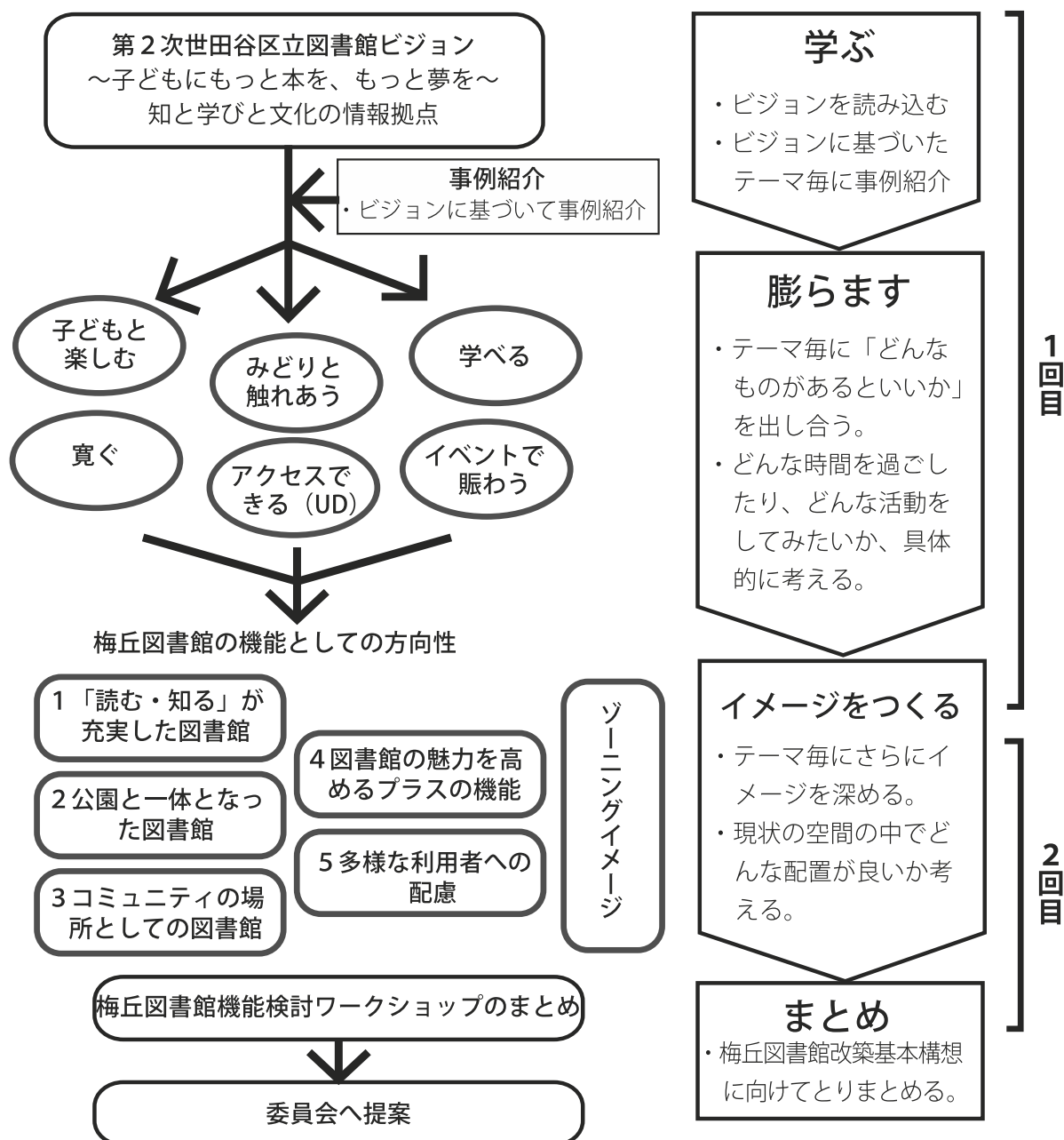
1	ワークショップの目的	52
2	ワークショップの概要	53
2-1	参加者募集案内	53
2-2	開催概要	54
	(1) 第1回ワークショップの概要	
	(2) 第2回ワークショップの概要	
3	ワークショップの記録	55
3-1	第1回ワークショップの記録	55
	(1) 日時	
	(2) 会場	
	(3) 参加人数	
	(4) プログラム	
	(5) ワークショップ風景(写真)	
3-2	第2回ワークショップの記録	59
	(1) 日時	
	(2) 会場	
	(3) 参加人数	
	(4) プログラム	
	(5) 配付資料：機能や構成の抽出	
	(6) 配付資料：1回目のまとめ	
	(7) ワークショップ風景(写真)	
4	ワークショップの意見のまとめ(第1回、2回WSの結果より)	75
4-1	「読む・知る」が充実した図書館	75
	(1) 本に囲まれて本を読む	
	(2) 蔵書について	
	(3) バリアフリー対応の図書	
	(4) 多様な媒体による図書	
	(5) 図書の案内の充実	
	(6) PC環境	
	(7) 貸出システム、管理	
	(8) 選書等	

4-2	公園と一体となった図書館	77
(1)	公園と図書館を一体的にして相互の魅力を活かす	
(2)	公園に出入りできるようにする	
(3)	公園とリンクした屋上を活用する	
4-3	コミュニティの場所としての図書館	78
(1)	交流の場としての図書館	
(2)	おしゃべりができる、して良い図書館	
(3)	図書館イベントができる場所	
(4)	会議室	
(5)	区民参加型のアイデア	
4-4	図書館の魅力を高めるプラスの機能	79
(1)	リラックスできる空間づくり	
(2)	音楽やアートとの組み合わせ	
(3)	飲食や買い物ができる場所	
(4)	開放的で明るい空間	
(5)	わかりやすいつくり	
(6)	便利な機能、安心して使える図書館	
(7)	その他	
4-5	多様な利用者への配慮	80
(1)	子ども	
(2)	ユニバーサルデザイン	
(3)	図書館の利用を増やすためのしかけ	
4-6	ゾーニングについて	81
(1)	＜「読む」「知る」が充実した図書館＞グループによる意見	
(2)	＜コミュニティの場としての図書館＞グループによる意見	
(3)	＜公園と一体となった図書館＞グループによる意見	

1 ワークショップの目的

- ・梅丘図書館改築に伴い、平成27年3月に策定された「第2次世田谷区立図書館ビジョン ～子どもにもっと本を、もっと夢を～」に基づき、より地域に利用される図書館づくりを目指すため、梅丘図書館改築基本構想策定委員会として、住民参加によるワークショップを開催する。
- ・ワークショップで出た意見をもとに、梅丘図書館改築基本構想策定委員会できとりまとめ、基本構想の策定に反映させることを目的とする。

梅丘図書館機能検討ワークショップの進め方



2 ワークショップの概要

2-1 参加者募集案内

新しい梅丘図書館のこと いっしょにお話しませんか。

昭和43年に開館した梅丘図書館も年月を経て、開館してから今年で47年目になりました。
「エレベーターがない」「段差が多い」など利用者サービスにおいても様々な問題があり、
より環境に配慮した施設を目指すために図書館を改築することになりました。

今後の新しい梅丘図書館についてどんな図書館にしたいか、
基本構想づくりのためにいっしょにお話しませんか。

梅丘図書館機能検討 ワークショップ開催のお知らせ

日時	第1回 平成28年 1/15 金曜日 午後7時～	第2回 平成28年 2/14 日曜日 午後1時～
会場	どちらも、梅丘パークホール (松原6-4-1)	各回 定員 先着50名

事前申込制 あらかじめお申込が必要です。12月17日～25日に、
せたがやコールまでお申込ください。

1回でもOK! どちらかの回のみのご参加も受け付けています。

手話通訳あり ご希望の方は申込時にお申し出ください。

ひととき保育あり (5ヶ月～小学校未就学児) ご希望の方は申込時にお申し出ください。

今後の動き予定	現在	平成27年度	→ 基本構想
		平成28～30年度	→ 基本設計
		平成31年度	→ 実施設計
		平成32年度	→ 着工
		平成33年度	→ 竣工
		平成34年度	→ 開館

ワークショップの申し込み先 — **せたがやコール** TEL.5432-3333 FAX.5432-3100
担当課 問い合わせ先 — **中央図書館** TEL.3429-1811 FAX.3429-7436

参加者募集の概要

- (1) 区のおしらせ 12月15日号に募集案内を掲載
- (2) 区HPにて募集案内の周知
- (3) 募集案内の配付
 - ・中央図書館・各地域館・まちかど図書室・図書館カウンターに配付
 - ・梅丘図書館前面にある約100世帯に各戸配付
 - ・羽根木公園事務所、プレーパーク事務局に個別配付

2-2 開催概要

(1) 第1回ワークショップの概要

日 時：平成28年1月15日(金) 19:00～21:00

会 場：梅丘パークホール

参加人数：52名(公募参加者26名、策定委員会委員10名、図書館職員16名)

参加スタッフ：15名(建築事務所7名、コンサルタント8名)

事務局：3名

プログラム：新しい図書館は、どんな図書館(機能)になるといいかを考えよう

(2) 第2回ワークショップの概要

日 時：平成28年2月14日(日) 13:00～16:00

会 場：梅丘パークホール

参加人数：42名(公募参加者22名、策定委員会委員9名、図書館職員11名)

参加スタッフ：14名(建築事務所6名、コンサルタント8名)

事務局：3名

プログラム：新しい図書館は、どんな特徴があるといいかを考えよう

3 ワークショップの記録

3-1 第1回ワークショップの記録

(1) 日時

○平成28年1月15日(金) 19:00～21:00

(2) 会場

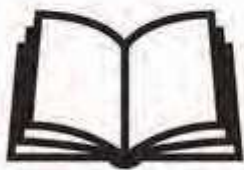
○梅丘パークホール

(3) 参加人数

○参加人数 : 52名(公募参加者26名、策定委員会委員10名、図書館職員16名)

○参加スタッフ: 15名(建築事務所7名、コンサルタント8名)

○事務局 : 3名



第 1 回

梅丘図書館機能検討ワークショップ

平成 28 年 1 月 15 日 (金)

新しい梅丘図書館は、
どんな図書館（機能）になるといいかを考えよう



19:00 オリエンテーション【30分】

あいさつ・趣旨説明

第2次図書館ビジョン・梅丘図書館の周辺環境の説明

図書館の事例紹介：新館構想は発想の転換から

～固定観念を捨てれば10年先が見える～

仁上幸治氏（基本構想策定委員／和光大学非常勤講師）

19:30 グループワーク【60分】

6グループに分かれて意見交換

○こんな図書館があるといいな！

・どんな雰囲気？《空間》

・「だれが」使う？使いたい？《人》

・どんなことをする？《機能》

○「梅丘図書館で大切なこと（機能）3つ」

「残しておきたいこと2つ（あれば）」をまとめる

20:30 発表・投票【25分】

発表（3分×6グループ）

シール投票

21:00 終了



○ワークショップとは：少人数のグループで作業をしながらアイデア出しや合意形成を目指す話し合いの方法です。

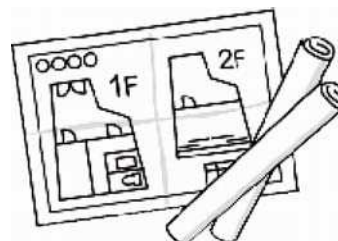
主催：世田谷区立中央図書館

昭和 43 年に開館した梅丘図書館も早月を経て、開館してから今年で 48 年目になりました。

「エレベーターがない」「段差が多い」など利用者サービスにおいても様々な問題があり、より環境に配慮した施設を目指すために図書館を改築することになりました。今後の新しい梅丘図書館についてどんな図書館にしたいか、いっしょにお話しませんか。ここでの意見は、基本構想づくりに反映されます。



○基本構想とは：梅丘図書館への導入機能や規模、空間構成などの整備の基本的な方針をまとめるもの。基本構想に基づき、基本設計、実施設計を行います。



ワークショップのルール かならず守ってね！！

- 1 自分ばかり話しません
- 2 頭から否定しません
- 3 楽しい雰囲気を大切にします

次回のお知らせ

第 2 回梅丘図書館機能検討ワークショップ

新しい梅丘図書館について

「私たちの案」をつくってみよう

平成 28 年 2 月 14 日（日）午後 1 時～4 時（予定）

場所：梅丘パークホール

(5) ワークショップ風景 (写真)



3 - 2 第2回ワークショップの記録

(1) 日時

平成28 年2月14日(日) 13:00 ~ 16:00

(2) 会場

梅丘パークホール

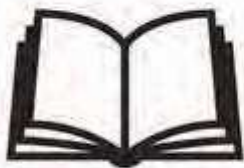
(3) 参加人数

参加人数 : 42名(公募参加者22 名、策定委員会委員9 名、図書館職員11 名)

参加スタッフ: 14名(建築事務所6 名、コンサルタント8 名)

事務局 : 3名

(4) プログラム



第 2 回

梅丘図書館機能検討ワークショップ

平成 28 年 2 月 14 日 (日)

～新しい梅丘図書館は、どんな特徴があるといいかを考えよう～



13:00 オリエンテーション【30分】

開会 本日の進め方／前回のまとめ／機能図の説明

13:30 グループワーク【140分】

●グループワーク①：梅丘図書館の特徴を考えよう！（30分）

※興味あるテーマに移動、6グループに分かれる

テーマ1：「読む・知る」が充実した図書館（2グループ）

テーマ2：公園と一体となった楽しい図書館（2グループ）

テーマ3：コミュニティの場所としての図書館（2グループ）

◎共通テーマ：図書館の魅力を高めるプラスの機能

◎共通テーマ：多様な利用者への工夫・配慮

14:00 ●発表

・発表（3分×6グループ）

～休憩（10分）～

14:30 ●グループワーク②：空間イメージも考えよう！（60分）

※同テーマを合体、3テーブルで考える

★模型を見ながらイメージ

★「梅丘図書館の3つの特徴」「残しておきたいこと2つ」をまとめる

15:30 ●発表・投票・まとめ【20分】

・発表（3分×3グループ）

・投票・まとめ

15:50 閉会

16:00 終了



○ワークショップとは

少人数のグループで作業をしながらアイデア出しや合意形成を目指す話し合いの方法です。

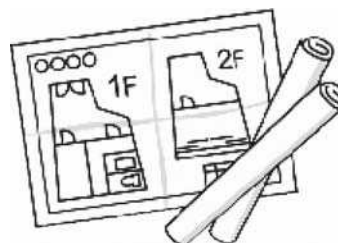
主催：世田谷区立中央図書館

昭和 43 年に開館した梅丘図書館も早月を経て、開館してから今年で 48 年目になりました。

「エレベーターがない」「段差が多い」など利用者サービスにおいても様々な問題があり、より環境に配慮した施設を目指すために図書館を改築することになりました。今後の新しい梅丘図書館についてどんな図書館にしたいか、いっしょにお話しませんか。ここでの意見は、基本構想づくりに反映されます。



○基本構想とは：梅丘図書館への導入機能や規模、空間構成などの整備の基本的な方針をまとめるもの。基本構想に基づき、基本設計、実施設計を行います。



ワークショップのルール
かならず守ってね！！

- 1 自分ばかり話しません
- 2 頭から否定しません
- 3 楽しい雰囲気大切にします

今後の動き(予定)

現在▶	平成27年度	→ 基本構想
	平成28～30年度	→ 基本設計
	平成31年度	→ 実施設計
	平成32年度	→ 着工
	平成33年度	→ 竣工
	平成34年度	→ 開館

第1回梅丘図書館ワークシヨップ
機能や構成の抽出

2016.02.14

2. 梅丘図書館導入機能の抽出

第1回ワークショップの結果を以下の通り分類しました。特にハード面に関わる部分について整理しました。

- (1) 「読む・知る」が充実した図書館
- (2) 公園と一体となった図書館
- (3) コミュニティの場所としての図書館

共同生活

- (4) 図書館の魅力を高めるプラスの機能
- (5) 多様な利用者への工夫・配慮

2. 梅丘図書館導入機能の抽出

イントラン
スホール
(共用部)

三

階段
以“一タ-

馬主轉場

多様な利用者への工夫・配慮

図書館の魅力を高めるための機能

読む・知る」
が充実した
図書館

公園と一体
となった
図書館

図書館
コミュニティの
場所としての

盗案

提案機能例 (オプシヨン)

ボランティ
アーム

舞台上イベント

交流
スペース

ハバルコニー
テラス

ギヤラリー

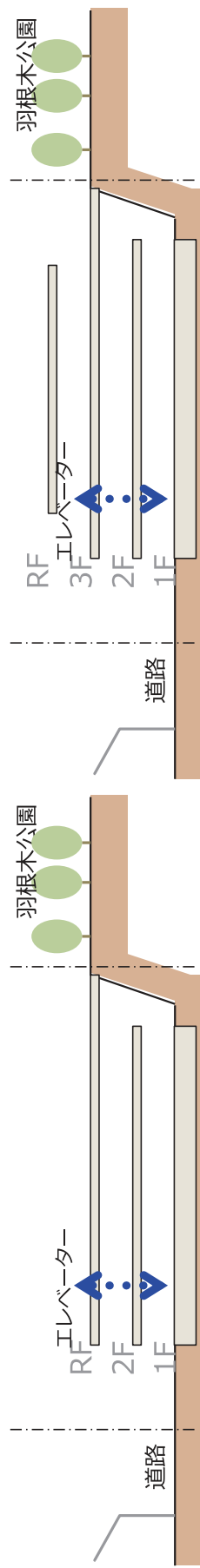
多目的室
(會議室)

カッパ

7-11
ツツエニ

3. 図書館の階構成と公園との関係

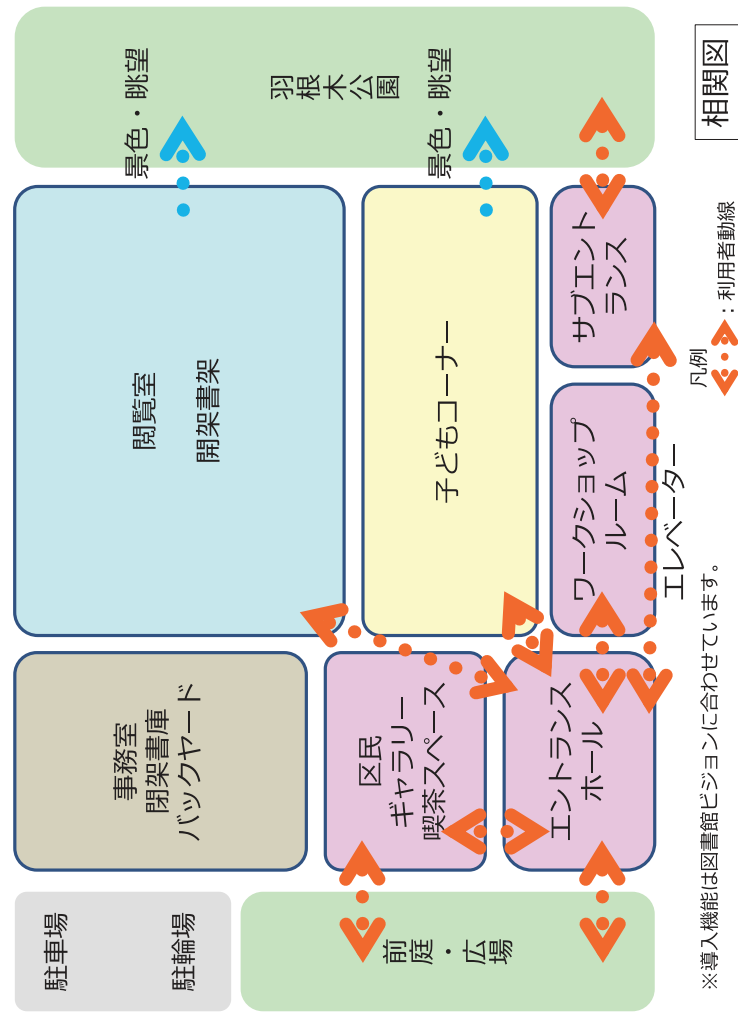
新図書館で想定される階構成は2層または3層です。(※都市計画法53条の許可基準より、階数は3以下で地階は不可)
羽根木公園との北側の公園との関係は下図の通りです。
エレベーターは羽根木公園のレベルまで着床することで、バリアフリー動線を確保します。



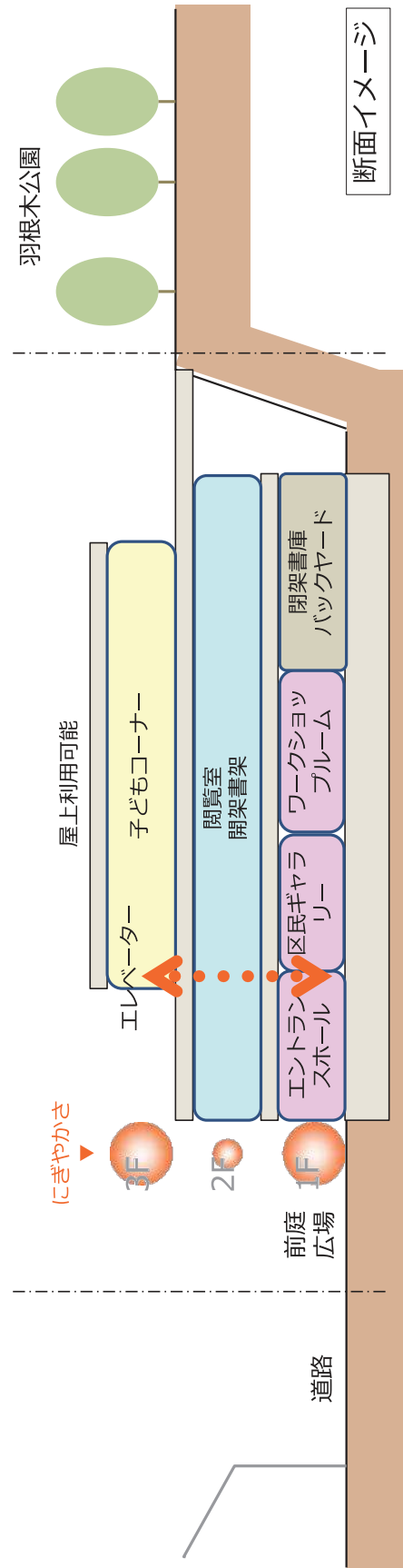
ワークショップまとめ-A案

◆ポイント

- ① 3層構成
- ② 羽根木公園と3階をつなげる
- ③ 機能に応じた階構成
- 3階：子どもコーナーを配置し公園と連携
- 2階：一般閲覧室・開架書架を集約
- 1階：地域交流機能、前庭と一体利用可能



相関図

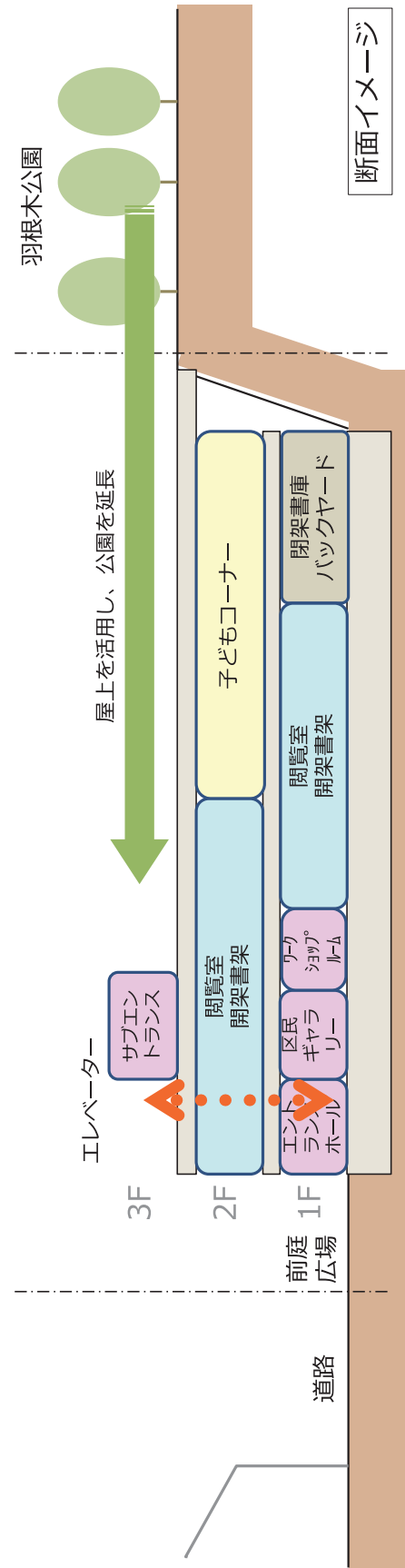
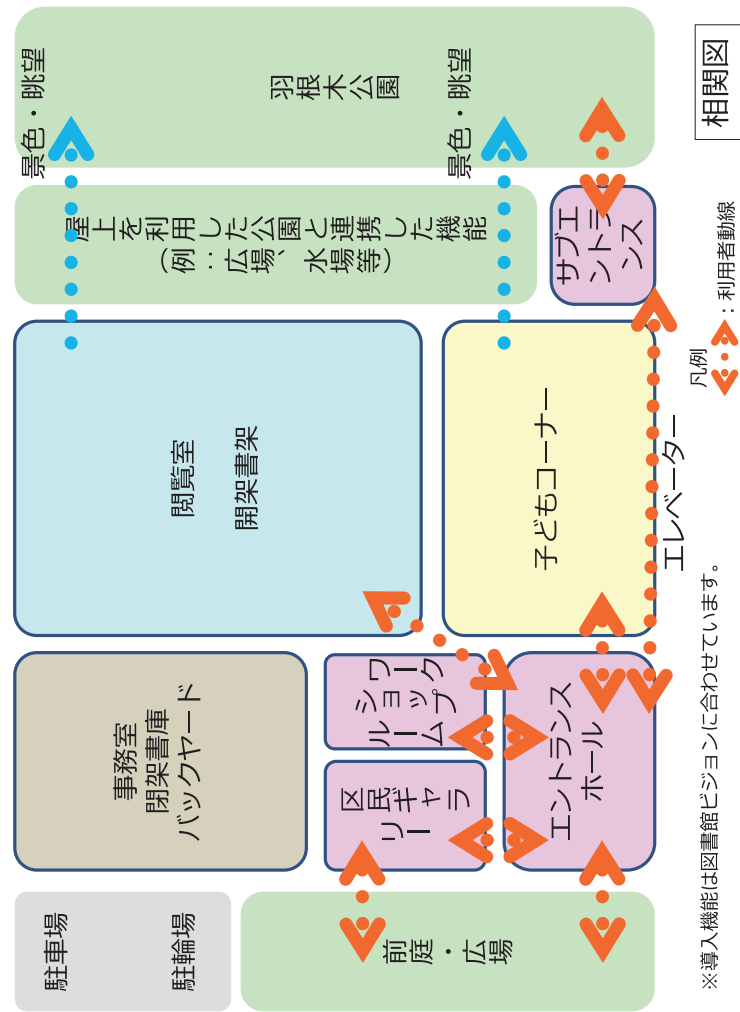


断面イメージ

ワークショップまとめ-B案

◆ポイント

- ① 2層構成
- ② 屋上と羽根木公園をつなげる
- ③ 屋上は公園と連続した屋外広場として活用
…屋上にはエレベーターや階段のボリュームのみ
- ④ 一般閲覧室は1・2階に分散配置



(6) 配付資料：1回目のまとめ

1-1. 本に囲まれて本を読む

① 本に囲まれた空間

- ・古本屋的空間も残したい！
 - ※狭い場所に天井まで本があると、
いう雰囲気も捨てがたい。
 - ※本に囲まれる空間も大切。
 - ※静かな場も必要、図書独特の「か
び臭い」雰囲気も良い



② 自習室

- ・代々学生たちが自習室で学んできた、大切にしたい

1-1. 本に囲まれて本を読む

- ・本に出会える場としての雰囲気（新しい発見）
 - ※参加型の書棚、区民がコーディネート



1-2. 蔵書

① 貴重な蔵書、めずらしい本

- ・貴重な蔵書を大事に
- ・新聞縮小版、布絵本など今ある貴重な蔵書がこれからも活用できるようにしたい。



② 手に入りにくい本

- ・一般には手に入らない蔵書の魅力
 - ※専門書、新聞、雑誌、バックナンバー
- ・読書人のための機能充実
 - ※絶版本が読める、各書評などが掲示されている、世界中の新聞雑誌が読める。



1-2. 蔵書

③ 地域資料

- ※世田谷区のことわかるコーナー、資料
- ※地域資料を充実して、「博物館」のように
- ※梅の本、木工の本など

④ 子ども本

- ※子供（未就学児）のコーナー

⑤ マンガ

- ※昔まんがも置いてあった（20年前）



1-3. バリアフリー対応の図書

①音声図書

※デジター図書



1-4. 多様な媒体による図書

①電子図書

※ネット ダウンロード 本のネットワーク

※電子書籍の充実

②DVD・映像

※DVDのレンタル（アダルト・オカルト以外で）

※DVDを視聴できるようにしたい。

※CD、DVD、テレビが見られる（映像の積極的な扱い）

※ビジュアル蔵書



1-5. 図書の案内の充実

①案内スタッフ

・調べる学ぶという機能を強化する！

※調べたい人と一緒に考えてくれるスタッフ

※ITや専門性のある本のラインナップで目的を持った人も呼び込む

※読書人を満足させる書評の掲示

※本と本のつながりのフォローができる（レファレンス）



1-6. PC 環境

①PC／インターネット環境

・時代に合ったニーズを先どり

※10年後も、若者や社会人も積極的に利用できる施設が必要

※PCを使ってプリントアウトなど情報収集（仕事、研究などに使える）



1-7. 貸し出しシステム

- ・自動貸出機能
- ・貸出記録の確認
- ・図書の分類から書店の分類へ（タグ管理）



1-8. 管理

- ・図書紛失の保険
- ・書籍のクリーニング
- ・図書選定のオープン化
- ・読書通帳



2-1. 公園と図書館を一体的にして相互の魅力を活かす

- ・羽根木公園を図書館に！
 - ※公園と空間的につなぎ、公園でも本が読める自然を感じる図書館に
- ・羽根木公園とつながった
 - ※空がある 自然光 木のぬくもり道がある 緑がある 当然バリアフリーです
- ・公園とつながる場をつくる
 - ※つながりがあると利用者の幅も広がり、個性的な図書館になる。
- ・公園と一体化
 - ※四季を感じられる。自然（緑）に埋もれた雰囲気が良い。
 - ※緑を眺めながら本を読める、公園と調和した設計デザインを！



羽根木公園

2-2. 公園に出入りできるようにする

- ・公園との連続性、関係性を活かす
 - ※羽根木公園と図書館の関係性を高める。
 - ※障害者・乳幼児のために、図書館内のエレベーターで公園にあげられる
 - ※公園への通り抜けができる道がある
 - ※羽根木公園と図書館のアクセスを一体化
 - ※公園との回遊性の確保、梅林から入れるように



2-3. 公園とリンクした屋上を活用する

- ・屋上の活用
 - ※屋上でイベント開催（映画会、イベント）
 - ※屋上が子どもの水遊びできる場所に／子供との遊びが一緒にできる



3-1. 交流の場としての図書館

- ・「困ったことがあったら図書館へ」と思える雰囲気
- ・地域の人々が多世代多様で交流できる場
 - ※全ての人が気軽に利用できる図書館であって欲しい（障害をお持ちの方にも）
 - ※図書館員に気軽に本の紹介など質問できると良い！
 - ※地域活動の拠点、ボランティアとの協力連携、誰かがいる（困ったことがあったら図書館へ行けばと思える雰囲気）



3-2. おしゃべりができる、して良い場

- ・リビング図書館
 - ※声を肯定してくれる子どもの声がある
- ・さわいでも静かでも
 - ※静かに本を読むだけでなく、読書会をしたり、こどもたちが騒いでもできる。そのために閲覧室を区分けする。



3-3. 図書館イベントができる場所

- ・面白いイベント、イベント交で流ができる
- ・子供（未就学児）も参加できる
- ・バリアフリーで誰でも参加できる
 - ※映画会
 - ※コンサート
 - ※読み聞かせ
 - ※講演、落語
 - ※朗読会
 - ※作家との集い



3-4. 会議室

- ・読書会ができる会議室
- ・会議スペース
- ・会議室を利用して読書会
- ・地域ボランティアの会合、集まり
- ・打合せ、グループ研究



3-5. 区民参加型のアイデア

①区民本棚

- ・参加型本棚、利用者が本棚をコーディネートできるコーナー（個人ライブラリ）
- ・大人が本を楽しむ姿をみせる
 - ※本を通じて人をつなぐ交流イベント
 - ※本のイベントをサポートする司書さんがいるとよい。



②区民掲示板

- ・物物交換用の掲示板。あげます、譲りますの掲示板がある（本に限らない）

③区民ボランティア

- ・読み手コンシェルジュがいる

読み手 コンシェルジュ
(外国人、視覚障害、シニア...)

4-1. リラックスできる空間づくり

①席のバリエーション

- ・読む“場”にバリエーションがある
 - ※人それぞれ（老若男女）に読むスタイルがあるので色々なバリエーションの部屋（空間）があると良い。
 - ※オープン、囲まれている、明るい、暗いなど



②木のぬくもり

- ・木のぬくもりがある図書館

4-2. 音楽やアートとの組み合わせ

①ギャラリー／ 音楽スペース

- ・図書館をギャラリーに！
 - ※今まで利用しなかった人にも来てもらうために、地域の人の発表の場や、本を探しながら ART に出会う空間にする。
 - ※その他 Cafe や音楽などの集客のしかけも盛り込む。



4-3. 飲食や買い物ができる場所

①カフェ

- ・居心地のよい空間
 - ※公園とつながるカフェ、障害者にもやさしく。

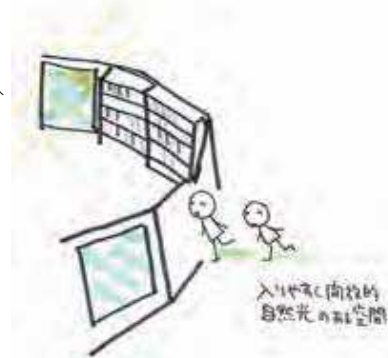
②売店

- ・梅丘の独自性、利用空間の拡充
 - ※カフェや食品など
 - ※図書館の中で、ちょっとした食品や雑貨、書籍を購入することができる
 - ※せたがや 100 選が見られる、買える
 - ※書店としての機能
 - ※飲食ができる



4-4. 開放的で明るい空間

- ・開放的で入りやすい、敷居が低い
- ・基本開放的である（明るい）（広々している）
- ・明るい窓が大きく、自然光を多く取り入れられる
- ・清潔感がある



4-5. わかりやすいづくり

①入り口でのわかりやすさ

- ・入り口でとまどわない、どこに行けばいいかわかる

②建物までのわかりやすさ

- ・駅をでてすぐ場所がわかる。（建築的に目立つように高い建物か塔、文化の塔）



4-6. 便利な機能

①視聴覚室

- ※視聴覚障害などをお持ちの方でも音声や触れることで理解できるような書籍（システム）があると良い。

②駐車、バス利用

- ・障がい者も使いやすく
 - ※駐車場スペースの確保
 - ※お年寄り、車いす、視覚障害にも対応した使いやすい施設

③電話スペース

- ※わざわざ外に出なくとも電話が掛けられるボックスなどがあると良い。

④その他

- ※ものづくり工房
- ※練習室（スタジオ）（教室）←梅丘が見られる



4-7. 安心して使える図書館

- ・セキュリティも大事！
※安心して席を立てるような図書館に
- ・トイレはきれいに
- ・禁止事項がない



4-8. 複合施設

- ・複合施設化（図書館機能だけではないのか）
- ・梅丘中学校のプールと共同で夏休みとか老人体育とか
- ・足もみ等マッサージができるところがある。
- ・軽い運動ができる。卓球等。



4-9. 世田谷らしさ

- ・世田谷だなあと思える空間
※まちにとってもよい。
※バリアフリーの充実
- ・うめがおか
う：梅丘の地域資料
め：めぐりあいの場
が：学校連携
お：大人お年寄りオンライン
か：考える紙



5-1. 子ども

- ・子ども達とふれあえる図書館
- ・地域の人が多世代で交流できる機会
※子どもがうるさいと言わない
※子どもは走る、騒ぐ、なくのがあたりまえ（以前、注意をされてから梅丘図書館から足が遠のいていた）。
※スタッフの人がフレンドリーで子どもを嫌がらないように。
※子どもの声が聞こえる、子どもがたくさんいる、子ども連れが来る
※子どもの姿はいい、話すことを肯定してくれる
※おじいさんとお孫さんと共通の時間をすごせる（世代間交流）



5-2. 高齢者、障害者、外国人

①福祉のまち梅丘

- ・高齢者、（障害者、子どもからお年寄りまで）の利用可能なバリアフリー
- ※幅広い世代で利用可能なバリアフリー化を実現
- ・外国語の標示によって外国人も利用しやすい



5-2. 高齢者、障害者、外国人

②対面朗読室、視覚障害者対応の充実

- ・対面朗読室
- ※せっかくあるのに使っていない！（世田谷区は23区内でも最も視覚障害者への図書館の取り組みが遅れている）
- ※図書館機能の充実 → 視覚障害者のための情報提供をもっと考えてほしい



5-3. 図書館の利用を増やす様々なしかけ

①知的好奇心のある人

- ※一歩踏み込んだ知識が欲しい人
- ※何かしている人、何かしたい人
- ※勉強、研究、書き物をしたい（大学生、社会人、主婦）
- ※おとなが本を楽しむ仕組み
- ※利用者が企画したイベントを図書館で行える仕組み（ビブリオバトル、ブック交換など）
- ※図書館主催のジャンル別読書会（メンバーを固定しない）
- 読書会を主催しているが、今の図書館ではできない

- ※本を通じた人の交流があり、サポートをする司書さんがいる
- ※活動を通じたおとなが本をたのしむ姿をみせることが大事



5-3. 図書館の利用を増やす様々なしかけ

②来ない人に来てもらいたい！

- ※図書館を利用しない人に来てもらうことが大事
- ※本好きだけではなく、何かしている人、何かしたい人、使いたいと思った人が訪れる
- ※貸し出しの所の係りが笑顔

③公園に来た人

- ※公園に来た散歩人公園に来た人がふらっと吸い込まれるように

④小学生、中高生、学生

- ※学校の宿題がしたい（小中高生）



5-3. 図書館の利用を増やす様々なしかけ

⑤その他

- ※気軽に立ち寄れる、いつでも行ける、
団体でも行かれる
- ※職員に話しかけやすい。どこにいるの
かすぐ分かる
- ※浮浪者への対策をどうする



(7) ワークショップ風景 (写真)



4 ワークショップの意見のまとめ

(第1回、2回WSの結果より)

4-1 「読む・知る」が充実した図書館

(1) 本に囲まれて本を読む

- ・図書館の本質は「本」であり、本に囲まれた空間イメージを大切にしたい。
- ・本を手にとって選べることで、本と出会える。(書架の大切さ→すべてを閉架にしない)
- ・自習室、閲覧室は大切にしたいという意見と、小さくても良いという意見に分かれた。

(2) 蔵書について

- ・貴重な蔵書は大切にしたい(一般には手に入りにくい専門書、古い雑誌、新聞縮刷版などもほしい)。
- ・梅丘図書館ならではの蔵書も必要(公園、梅、緑、福祉など)。
- ・子どもの本を充実してほしい。

(3) バリアフリー対応の図書

- ・音声図書、点字図書が必要である。

(4) 多様な媒体による図書

- ・電子書籍に触れられる場所があるとよい(PC、DVDなども)。
- ・DVD映像も見られるとよい。

(5) 図書の案内の充実

- ・調べる、学ぶ機能を充実させる。(レファレンスコーナー、調べ作業ができる部屋)
- ・そのため専門スタッフを充実させる。

(6) PC 環境

- ・IT環境を充実させる(インターネット環境、Wi-Fi環境、プリント環境、人的サポートも含む)。
- ・充実した検索システムを導入する(他自治体や国会図書館へのアクセス)。

(7) 貸出システム、管理

- ・テーマに沿って他の館にある本を掲示し、気軽に手に触れる機会があるとよい。

(8) 選書等

- ・選書がしっかりできる職員の配置を望む。
 - ・市民が選書できるしくみをつくる。
- ※蔵書数が大切という意見があった。

4－2 公園と一体となった図書館

（１）公園と図書館を一体的にして相互の魅力を活かす

- ・擁壁を緑化して、図書館のすべての階から緑が見えるようにする（窓から見える景色は大切である）。
- ・公園と図書館をテラスやウッドデッキでつなぎ、テラスで読書が出来るようにする。
- ・公園に出て読書ができるように、公園側の整備も図書館と連続するようにつけてほしい。
- ・図書館にしながら公園にいるような、開放的で緑豊かな空間（四季を感じられる）。
- ・水路があるとよい（マイナスイオン効果）。
- ・羽根木公園とつながりを感じさせる「名称（愛称？）」を検討する。
- ・吹き抜けがあり斜面側にも採光がある

（２）公園に出入りできるようにする

- ・公園から図書館に入れるような動線をつくる。
- ・車イスの人が、図書館を通過して羽根木公園にアクセスできる動線をつくる。

（３）公園とリンクした屋上を活用する

- ・公園と連続した空間でイベントができるようにする（映画会や、羽根木公園特有のプレーパークや梅まつりと結びついたイベント）。
- ・子どもが水遊びをできる場所があると良い。
- ・屋上も芝生で緑化したい（星空広場）。
- ・待ち合わせができるテラス。

4－3 コミュニティの場所としての図書館

(1) 交流の場としての図書館

- ・地域の人が多世代で交流できる場所とする。
- ・「困ったことがあったら図書館へ」と言える場所とする。

(2) おしゃべりができる、して良い図書館

- ・地域のリビング。子どもと大人が共存できる場所をつくる（そこではおしゃべりしても良い）。
- ・静かな場所と、おしゃべりをして良い場所は明確に分ける。

(3) 図書館イベントができる場所

- ・映画読み聞かせ講演落語、朗読会、作家との出会いなど図書館ならではのイベントができる場所。
- ・子どもも参加できるイベントを行う。

(4) 会議室

- ・読書会、地域ボランティアの会合、打ち合わせなどができる場所をつくる。
- ・勉強の場としても活用できるようにする。

(5) 区民参加型のアイデア

- ・市民がつくる本棚コーナーを設置する。
- ・市民がつくる本棚コーナーは、区民コーディネーターが運営できると良い。
- ・図書館ボランティア、読み聞かせボランティア、みどり関係のボランティアなどの活動の拠点とする（羽根木公園とつながるテラスなど）。
- ・みどり関係のボランティアは、かつて羽根木公園にあった、みずとみどりのよろず相談所を復活させる。

4－4 図書館の魅力を高めるプラスの機能

(1) リラックスできる空間づくり

- ・いろいろな場所で本が読める、読む場所を選べるようにする。
- ・木のぬくもりがある図書館とする。

(2) 音楽やアートとの組み合わせ

- ・多目的ギャラリーで音楽やアートの場としても活用できるようにする。

(3) 飲食や買い物ができる場所

- ・障害者が働けるカフェをつくる。
- ・飲食や売店は補完的なものでよいという意見もあった。

(4) 開放的で明るい空間

- ・明るい空間（現在の図書館は暗い）が求められている。
- ・ただし、光と窓の工夫は必要（窓は断熱、遮光性のあるもの）。
- ・自然光の照射があると（本にとっては）良くない。

(5) わかりやすいつくり

- ・図書館までの案内の充実（まちづくりと連携し、図書館までのルートをわかりやすくする）。
- ・図書館の案内の充実（入ってからのサインをわかりやすくする）。
- ・本の分類と、建物（サイン）の色彩を関連させたデザインができないか。

(6) 便利な機能、安心して使える図書館

- ・視聴覚室
- ・障害者用の駐車場
- ・電話ができる場所（携帯電話で話しができるボックス）
- ・きれいなトイレ
- ・安心して席を立てるセキュリティの充実

(7) その他

- ・世田谷らしさを表現したデザインとする。
- ・近隣施設との連携に配慮する（梅丘中学校など）。

4－5 多様な利用者への配慮

(1) 子ども

- ・子どもが本と出会える、本を静かに読むことも学ぶ（本を読む静かな環境を体験させることも必要）。
- ・小さな子どもが楽しく本を読むためには、大人が「うるさい」と言わずにすむつくり方とする。

(2) ユニバーサルデザイン

- ・誰にでも使いやすい図書館とする（高齢者、障害者、子ども連れ、外国人など）。
- ・車イスの人がエレベーターを使って羽根木公園に行けるようにする。
- ・障害者施設との連携（施設の商品販売、働く場として）。
- ・対面朗読ができる（自由なスペースでできると良い）。
- ・駐車場は利用しやすく
- ・2階部分がせり出しているなど、雨にあたらず車の乗降ができるような空間がほしい。

(3) 図書館の利用を増やすためのしかけ

- ・図書館だけではなくコミュニティの場としても使えるようにする。
- ・プレーパークから来る中高生の利用を取り込む。
- ・公園を利用する人がふらっと寄りたくなるようにする。
- ・学校の宿題をしに来る。
- ・知的好奇心のある人が来たくなる図書館。
- ・地域の学校、特別支援学校、大学などとの連携の方策を検討する。

4-6 ゾーニングについて

(1) <「読む」「知る」が充実した図書館>グループによる意見

- ・空間として、上層階に上がるにしたがって、「にぎやか」→「静か」というイメージにする。
- ・おしゃべりと静かにをすみわけ（「にぎやか」と「静か」）空間イメージ）。

【1階】諸室を作り、子どもたちを中心とした外からもみえる「にぎやか」な場所

- ・子どもの声：子どものスペース 児童書・雑誌 多少声が大きくても OK
- ・区民ギャラリー（子どもや老人が過ごしやすい場所がいいな）。
- ・利用者が活用する部屋（おはなしやサークル活動）を作り、道路側はにぎわいを見せる。

【2階】蔵書中心（大人）〈緑（公園）とエントラスの関係〉を空間的に活かす

- ・普通の声のおしゃべりやグループワーク
- ・2階からも公園の緑を望める工夫をする。

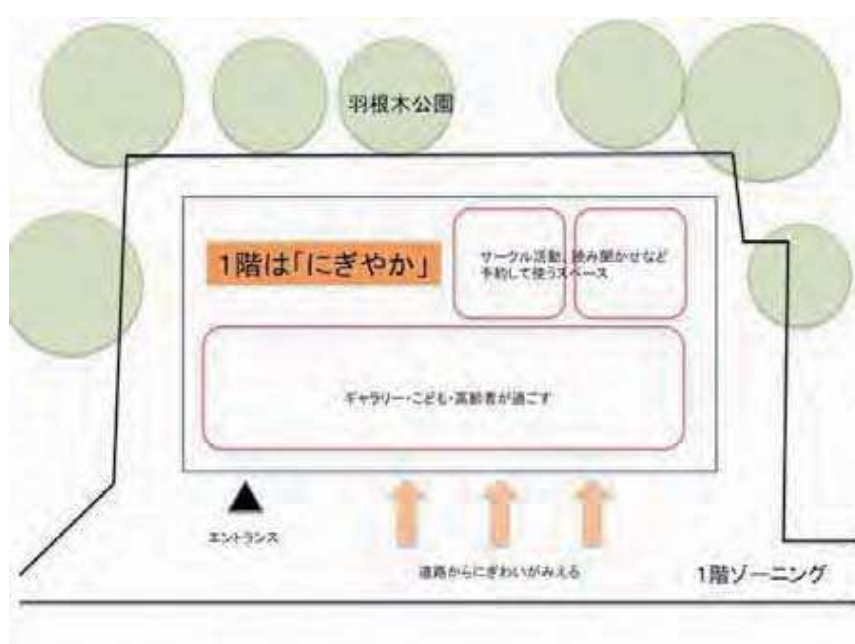
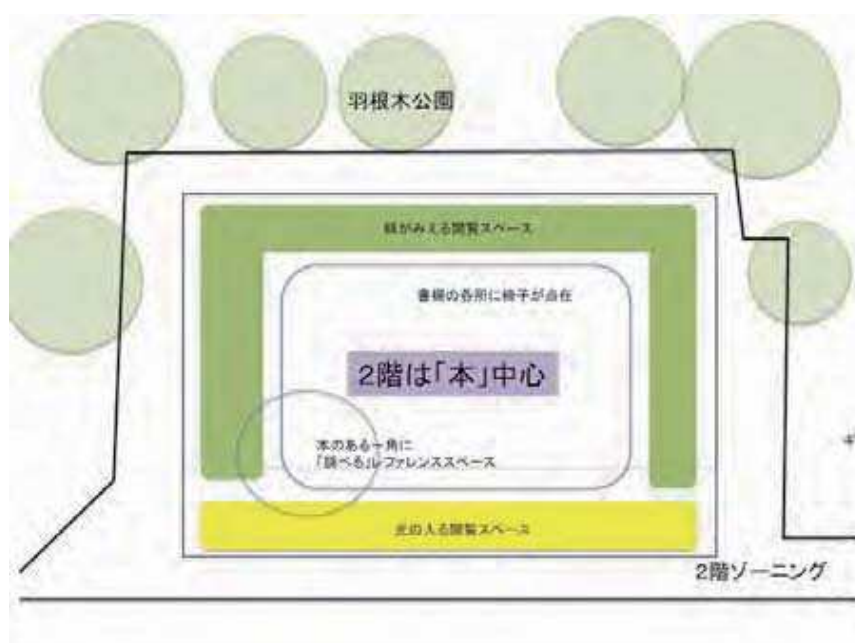
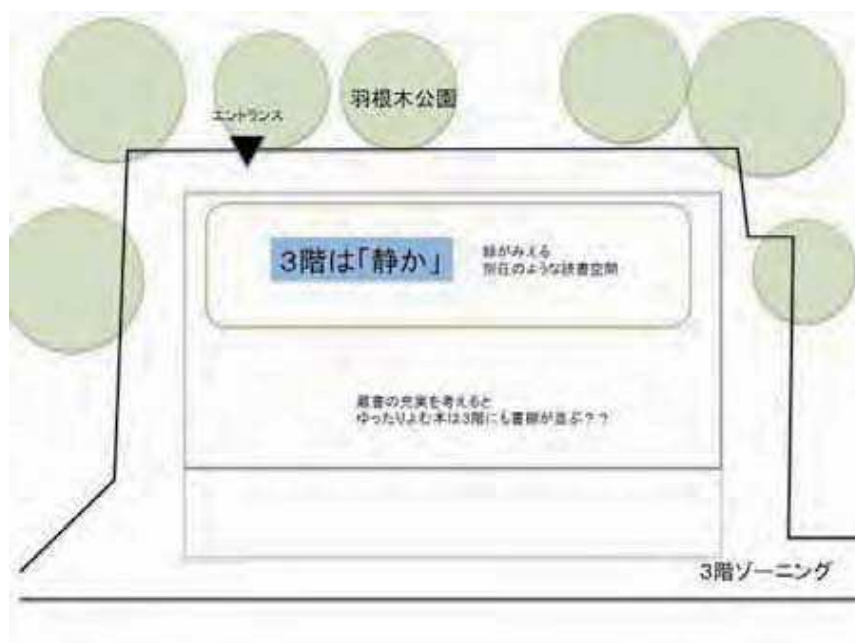
【3階】（上層階）は「静か」な別荘的（落ち着いたリゾートのような空間）で、公園や緑が見えるイメージ。

- ・静かな空間：閲覧スペース 新聞・静かな空間、外へ出てゆったり読書できるスペースを羽根木公園が見える3階か屋上に作る。
- ・屋上イベント広場は羽根木公園との交流の場にする。

・「読む」空間イメージ

- ・1、2階 高書架
- ・3階 低書架／真ん中に螺旋階段？
- ・書架は1フロアーか、せいぜい2フロアー分とする。
- ・本を読む場は2階（3階）の窓際がいいかな。
- ・3階で本を読むと公園がみえる
- ・「蔵書をより多く」できるだけ書を多く置く。9万冊→12万冊。
- ・1階（道路からアクセス）と3階（公園からアクセス）両方に貸出カウンターをつくる（自動貸出機でもよい）。





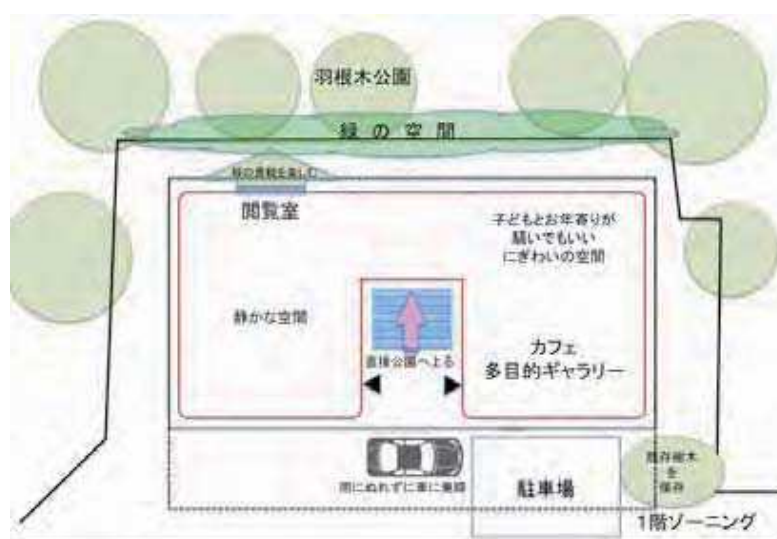
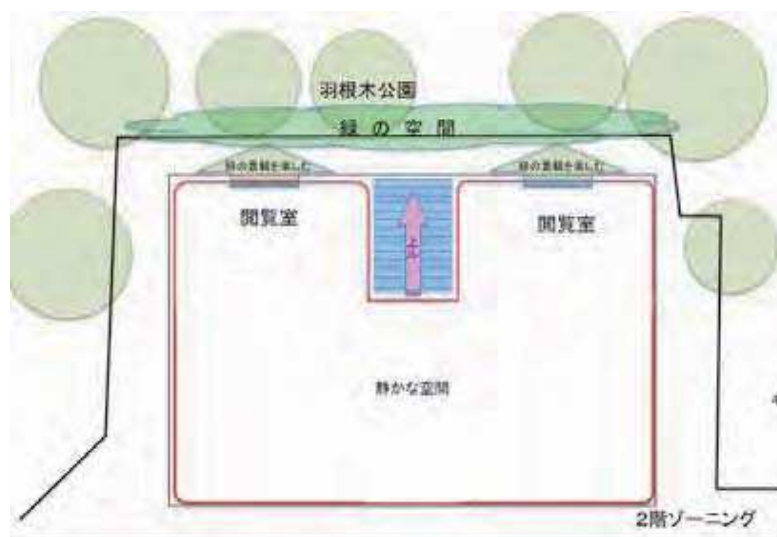
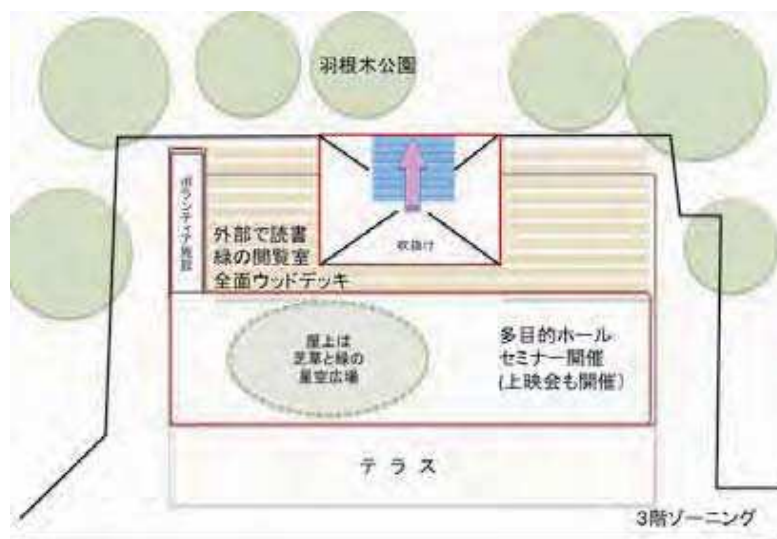
(2) <コミュニティの場としての図書館>グループによる意見

- ・ 3階建てで2階部分のテラス空間で公園とつながっている。
- ・ 中央階段が建物の中を貫通し1～3階まで建物に入らずに羽根木公園に行ける。
- ・ 1階エントランス、2階閲覧室、3階多目的ホール。
- ・ 賑やかなゾーンと静かなゾーンがある。

→賑やかなゾーン：カフェ、ギャラリー、シアター、視聴覚室

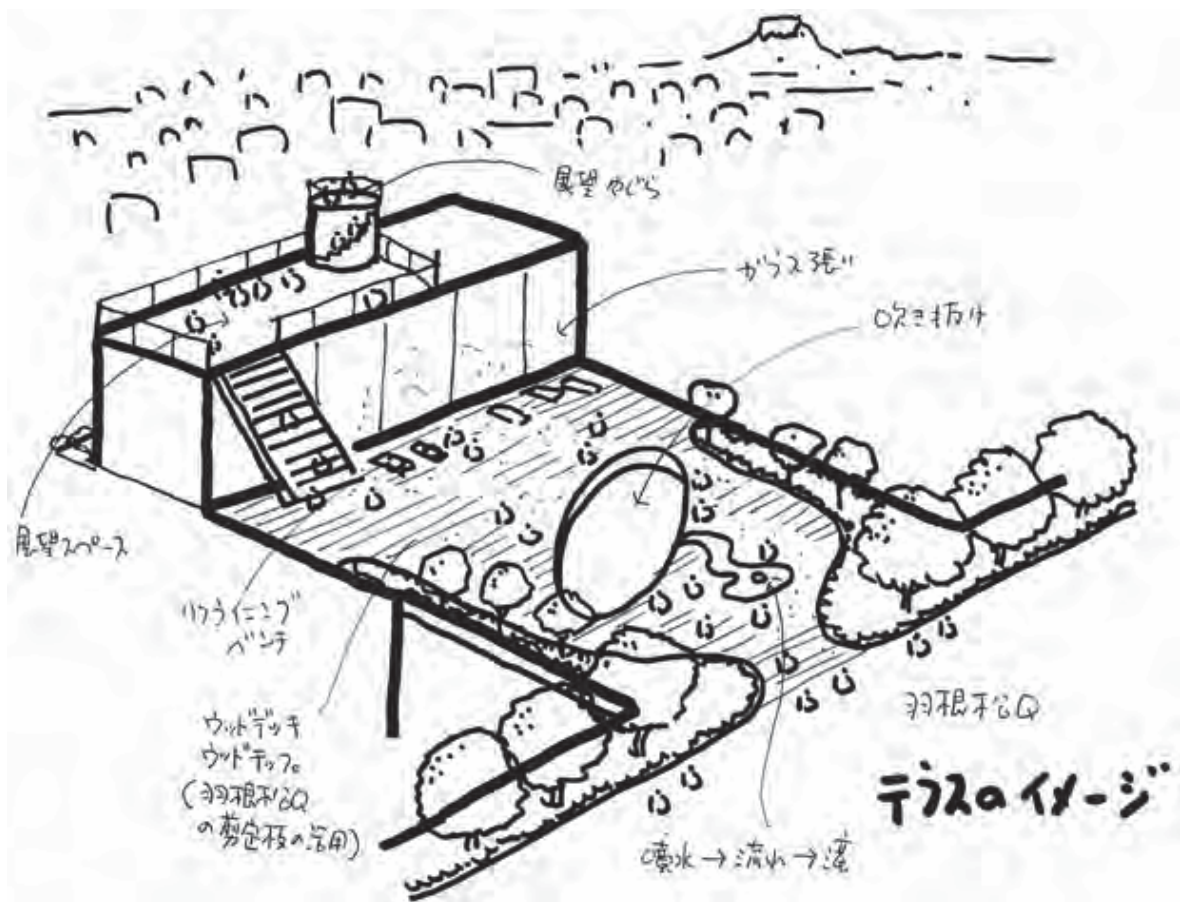
→静かなゾーン：書架

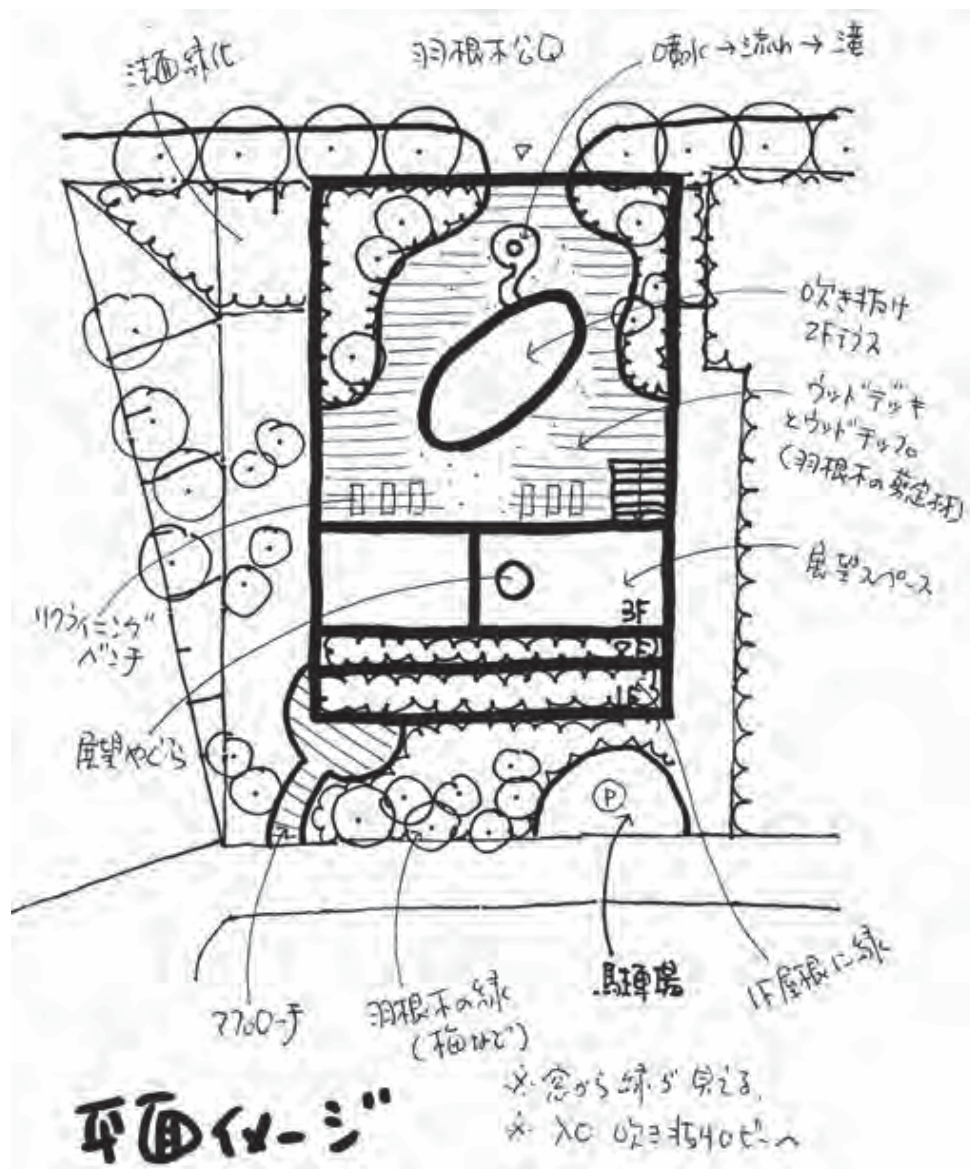
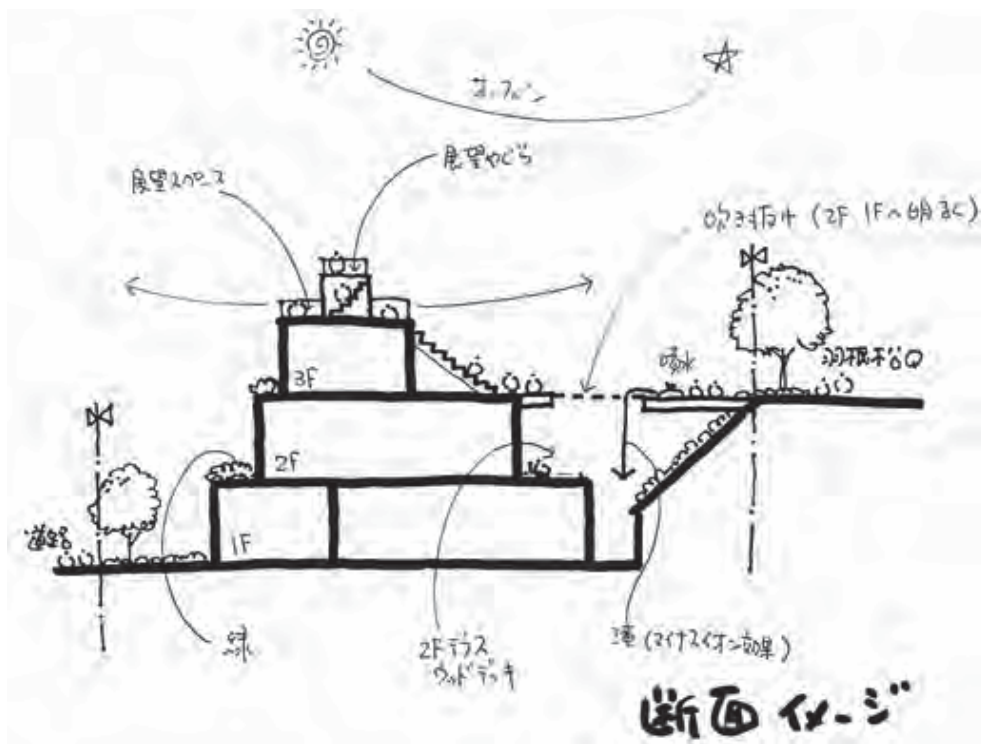




(3) <公園と一体となった図書館>グループによる意見

- ・ 梅丘図書館3つの特徴
- ・ みんなに来てもらう（しかけ）
- ・ 公園とつながった開放感
- ・ 二方向で入りたくなる入り口
- ・ 残しておきたいこと
- ・ コンクリートの擁壁ではなく、緑をいっぱい入れる。
- ・ 水路がある（マイナスイオンあふれる）。





梅丘図書館改築基本構想 報告書

発 行 平成 28 年 5 月
編 集 世田谷区教育政策部中央図書館
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 3-16-8
電話 03-3429-1811 FAX 03-3429-7436

「再生紙を利用しています」